

令和7年度（2025年度） 事業報告書

自 令和7年4月1日

至 令和8年3月31日

I. 法人の概要	P2
II. 実施事業と成果	P13
1. 森ノ宮医療大学	P13
2. 森ノ宮医療学園専門学校	P60
3. 関連事業部門	P70
III. 内部統制システムの方針と運用	P75
IV. 財務の概要	P78

学校法人森ノ宮医療学園
大阪市東成区中本4丁目1番8号

I. 法人の概要

1. 建学の精神

臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する

2. 学校法人の沿革

年	月	事 項
1973（昭和48）年	3月	厚生省より鍼灸師養成施設の認可を受ける
	4月	大阪鍼灸専門学校開校（大阪市東成区）
1977（昭和52）年	4月	学校法人森ノ宮学園となり、あわせて専修学校医療専門課程認可
1982（昭和57）年	4月	学校法人森ノ宮学園附属診療所、附属鍼灸施術所開設
1985（昭和60）年	4月	卒後教育雑誌「鍼灸 OSAKA」創刊
1988（昭和63）年	5月	鍼灸師養成に関わる法律により修業年限3年となる
	11月	中国・大連市中医医院と学術研究提携を結ぶ
1991（平成3）年	7月	米国、Santa Barbara College of Oriental Medicine と教育提携を結ぶ
1992（平成4）年	7月	中国・南京中医薬大学と学術研究提携を結ぶ
1995（平成7）年	3月	文部大臣より専門士（医療専門課程）の称号を付与
1996（平成8）年	6月	中国・江蘇省江陰市中医医院と交流開始
2000（平成12）年	4月	法人名を学校法人森ノ宮医療学園、 学校名を森ノ宮医療学園専門学校と改称 森ノ宮医療学園専門学校 柔道整復学科開設
2001（平成13）年	1月	本校舎増改築工事完成・はりきゅうミュージアム開設
2002（平成14）年	1月	「はりきゅうミュージアム」にて代田文誌特別展開催
	4月	森ノ宮医療学園専門学校 緑橋校舎開設
2003（平成15）年	3月	森ノ宮医療学園専門学校 柔道整復学科第1期生卒業 創立30周年記念式典 校歌「みどりの風」制定
	4月	森ノ宮医療学園専門学校 全日制アドバンスコース開講
	7月	森ノ宮医療学園専門学校 アネックス校舎完成
2004（平成16）年	3月	中国・江蘇省江陰市中医医院と学術・教育協定締結
2005（平成17）年	2月	医療法人淳良会関目病院と教育提携を結ぶ
2006（平成18）年	11月	森ノ宮医療大学設置認可
2007（平成19）年	2月	森ノ宮医療大学 東棟（East Port）校舎完成
	4月	森ノ宮医療大学開学（大阪市住之江区） 森ノ宮医療大学保健医療学部理学療法学科、鍼灸学科開設 森ノ宮医療大学附属鍼灸施術所 コスモス治療院開院

2008（平成20）年	2月	森ノ宮医療大学が第1回おおさか優良緑化賞・大阪府知事賞受賞
	11月	森ノ宮医療大学コスモキャンパス第2校地取得 学校法人森ノ宮医療学園附属診療所、附属鍼灸施術所を緑橋校舎に移転
2010（平成22）年	1月	し、学校法人森ノ宮医療学園附属みどりの風クリニック、みどりの風鍼灸院に改称
	3月	学校法人森ノ宮医療学園アネックス校舎完成
	4月	森ノ宮医療大学が地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立急性期・総合医療センター（現：大阪急性期・総合医療センター）と相互連携協定を締結
	6月	森ノ宮医療大学 食堂棟（Medi CAFÉ）完成
2011（平成23）年	3月	森ノ宮医療大学 西棟（West Port）完成
	4月	森ノ宮医療大学保健医療学部看護学科開設 森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻（修士課程）開設
	7月	森ノ宮医療大学が医療法人協和会千里中央病院と相互連携協定を締結
	12月	森ノ宮医療大学が医療法人錦秀会と相互連携協定を締結
2012（平成24）年	3月	森ノ宮医療大学売店（Green Shop）開設（株式会社三省堂書店）
	4月	森ノ宮医療大学保健医療学部鍼灸学科に鍼灸コース・スポーツ特修コース・教職課程開設
2013（平成25）年	3月	森ノ宮医療大学 公益財団法人日本高等教育評価機構による機関別認証評価受審の結果、「適合」との判定 森ノ宮医療学園専門学校 文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認定
	5月	森ノ宮医療大学が公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院と相互連携協定を締結
2014（平成26）年	1月	森ノ宮医療大学が大阪市住之江区と包括連携協定を締結
	1月	森ノ宮医療大学が医療法人協和会と相互連携協定を締結
	2月	森ノ宮医療大学が中国・浙江省人民医院と学術交流に関する協定を締結
	6月	森ノ宮医療大学が高槻市教育委員会と連携協定を締結
	11月	森ノ宮医療大学が特定医療法人（現：社会医療法人）有隣会東大阪病院と森ノ宮医療大学保健医療学部の相互連携協定を締結
	11月	学校法人森ノ宮医療学園が吹田市教育委員会と連携協定を締結
2015（平成27）年	2月	森ノ宮医療大学が相愛大学と包括連携協定を締結
	3月	森ノ宮医療大学が社会医療法人景岳会南大阪病院と相互連携協定を締結
	4月	森ノ宮医療大学が大阪市教育委員会と学生の実習に関する協定を締結
	7月	森ノ宮医療大学が守口市教育委員会と連携協定を締結
2016（平成28）年	1月	森ノ宮医療大学が社会福祉法人帝塚山福祉会と相互連携協定を締結
	3月	森ノ宮医療学園専門学校が大阪社会体育専門学校と包括連携協定締結
	4月	森ノ宮医療大学助産学専攻科開設

		森ノ宮医療大学保健医療学部臨床検査学科、作業療法学科開設
		森ノ宮医療大学 南棟（Canal Port）校舎完成
		森ノ宮医療大学 南棟（Canal Port）に体育館（MTC：メディカル・トレーニング・センター）完成、図書館（Medical Ei）移設
	6月	森ノ宮医療大学が地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立成人病センター（現：大阪国際がんセンター）と相互連携協定を締結
	8月	学校法人森ノ宮医療学園が学校法人常翔学園とSDにおける大学間連携に関する協定を締結
	9月	森ノ宮医療学園専門学校がフロリダ・カレッジ・オブ・インテグレイティブメディスン（FCIM）と姉妹校提携
	11月	森ノ宮医療大学創立10周年記念式典を挙行
	12月	森ノ宮医療大学西側校地取得
2017（平成29）年	2月	森ノ宮医療大学が社会医療法人純幸会関西メディカル病院と相互連携協定を締結
	4月	森ノ宮医療大学保健医療学部看護学科養護教諭養成課程開設
		森ノ宮医療大学 禁煙宣言
	8月	学校法人森ノ宮医療学園が学校法人武井育英会と包括連携協定を締結
	10月	森ノ宮医療大学が株式会社かなえるリンク（現：株式会社リニエール）と森ノ宮医療大学保健医療学部の相互連携協定を締結
	11月	学校法人森ノ宮医療学園附属治療院 京都施術所（ERP 下鴨南治療院）開院
	12月	森ノ宮医療大学 複合型スポーツ施設（グリーンスクエア）完成
2018（平成30）年	1月	森ノ宮医療大学が放送大学と単位互換協定を締結
		森ノ宮医療大学が公益財団法人日本生命済生会付属日生病院（現：日本生命病院）と相互連携協定を締結
	3月	森ノ宮医療大学がカーティン大学（オーストラリア）と連携協定を締結
	4月	森ノ宮医療大学保健医療学部臨床工学科開設
2018（平成30）年	4月	森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科医療科学専攻（博士後期課程）開設
		学校法人森ノ宮医療学園がミズノ株式会社と相互連携協定を締結
	7月	森ノ宮医療学園専門学校が大阪市東成区と包括連携協定締結
		森ノ宮医療大学が三育大学（韓国）と連携協定を締結
	11月	森ノ宮医療大学が近畿大学医学部附属病院（現：近畿大学病院）と相互連携協定を締結
	12月	森ノ宮医療大学が公益財団法人大阪国際がん治療財団大阪重粒子線センターと相互連携協定を締結
2019（平成31）年	2月	森ノ宮医療学園ランゲージスクールが大阪府から各種学校として認可される。
	4月	森ノ宮医療学園ランゲージスクール開校
2020（令和2）年	1月	森ノ宮医療大学 桜棟（Sakura Port）校舎完成
	4月	森ノ宮医療大学保健医療学部診療放射線学科開設

		森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科看護学専攻（修士課程）開設
		森ノ宮医療大学保健医療学部臨床検査学科 細胞検査士課程開設
	9月	森ノ宮医療大学が社会医療法人愛仁会と相互連携協定を締結
	10月	森ノ宮医療大学が独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）大阪みなと中央病院と相互連携協定を締結
	11月	学校法人森ノ宮医療学園がイカリソース株式会社と連携協定を締結
	12月	森ノ宮医療大学が独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）大阪病院と相互連携協定を締結
2021（令和3）年	4月	学校名を森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクールに改称
		学校法人森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール介護福祉学科開設
	6月	学校法人森ノ宮医療学園が西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部大阪支社と連携協定を締結
	8月	学校法人森ノ宮医療学園が NTT ドコモレッドハリケーンズ大阪（現：レッドハリケーンズ大阪）と連携協定を締結
2022（令和4）年	3月	森ノ宮医療大学 部室棟（Passerelle Port）完成
	4月	森ノ宮医療大学保健医療学部を看護学部、総合リハビリテーション学部、医療技術学部に変更（2022年度入学生より）
		森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科看護学専攻（博士後期課程）開設
		森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科看護学専攻 修士課程から博士前期課程に課程変更し、NPコースを開設
2022（令和4）年	4月	学校法人森ノ宮医療学園が西尾レントオール株式会社と相互連携協定を締結
	5月	森ノ宮医療大学が医療法人聖和錦秀会（現：医療法人錦秀会）阪和いずみ病院と相互連携協定を締結
2022（令和4）年	9月	学校法人森ノ宮医療学園が大阪市と包括連携協定を締結
	11月	森ノ宮医療大学附属大阪ベイククリニック開院
2023（令和5）年	8月	森ノ宮医療大学が独立行政法人国立病院機構大阪医療センターと相互連携協定を締結
	10月	森ノ宮医療大学が独立行政法人労働者健康安全機構大阪ろうさい病院と相互連携協定を締結
2024（令和6）年	2月	森ノ宮医療大学 葵棟（Aoi Port）校舎完成
	3月	学校法人森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール閉校
	4月	森ノ宮医療大学総合リハビリテーション学部言語聴覚学科開設
		森ノ宮医療大学附属鍼灸施術所 コスモス治療院を鍼灸臨床センターに改称
	11月	学校法人森ノ宮医療学園が公益社団法人2025年日本国際博覧会協会と災害時における帰宅困難者の受入れ等に関する協定を締結
	12月	学校法人森ノ宮医療学園が学校法人OCCと包括的連携協定を締結
2025（令和7）年	3月	森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科 看護学専攻博士前期課程 NPコースを廃止

2026（令和8）年	4月	森ノ宮医療大学医療技術学部鍼灸学科にアスレティックトレーナーコースを開設 森ノ宮医療大学 柔棟（Yawara Port）、和棟（Nagomi Port）校舎取得 森ノ宮医療大学 シミュレーションセンター（T-MIC：Teamwork Medical Innovation Center）開設 森ノ宮医療大学 和棟に森ノ宮医療大学附属鍼灸臨床センター移設
	12月	森ノ宮医療大学が宗教法人在日本南プレスビテリアンミッション 淀川キリスト教病院と相互連携協定を締結
	2月	森ノ宮医療大学が医療法人渡辺医学会と相互連携協定を締結 学校法人森ノ宮医療学園附属治療院 京都施術所（ERP 下鴨南治療院）閉院
	3月	森ノ宮医療大学が社会医療法人大阪国際メディカル＆サイエンスセンター 大阪けいさつ病院と相互連携協定を締結

3. 設置する学校・学部・学科等

法人の名称	学校法人 森ノ宮医療学園	事務所の所在地	大阪府大阪市東成区 中本4丁目1番8号
-------	---------------------	---------	--------------------------------

■森ノ宮医療大学 ※令和4年度に学部再編

学部・学科名等	就業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	備考
大学院保健医療学研究科 保健医療学専攻（修士課程）	2	6	0	12	開設年度 平成23年度
大学院保健医療学研究科 看護学専攻（博士前期課程）	2	9	0	18	開設年度 令和2年度
大学院保健医療学研究科 医療科学専攻（博士後期課程）	3	2	0	6	開設年度 平成30年度
大学院保健医療学研究科 看護学専攻（博士後期課程）	3	2	0	6	開設年度 令和4年度
保健医療学部／医療技術学部 鍼灸学科	4	60	0	240	開設年度 平成19年度
保健医療学部／総合リハビリテーション学部 理学療法学科	4	70	0	280	開設年度 平成19年度
保健医療学部／看護学部 看護学科	4	90	0	360	開設年度 平成23年度
保健医療学部／医療技術学部 臨床検査学科	4	70	0	280	開設年度 平成28年度

保健医療学部／総合リハビリテーション学部 作業療法学科	4	40	0	160	開設年度 平成28年度
保健医療学部／医療技術学部 臨床工学科	4	60	0	240	開設年度 平成30年度
保健医療学部／医療技術学部 診療放射線学科	4	80	0	320	開設年度 令和2年度
総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科	4	40	0	80	開設年度 令和6年度
助産学専攻科	1	10	0	10	開設年度 平成28年度

(2025年5月1日現在)

■森ノ宮医療学園専門学校

学部・学科名等	就業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	備考
医療専門課程 鍼灸学科	3	120	0	360	開設年度 昭和48年度
医療専門課程 柔道整復学科	3	90	0	270	開設年度 平成12年度

(2025年5月1日現在)

4. 施設等の状況

学校名（所在地）	校地現有面積	校舎現有面積	備考
森ノ宮医療大学・大学院 (大阪市住之江区南港北1丁目39番1号)	m ² 32,936.65	m ² 7,193.15 (東棟)	【令和5年度】 葵棟新築（5,425.79m ² ） 【令和6年度】 和棟（旧日本語学科棟） 柔棟（旧介護福祉学科棟） 上記2棟を大学校舎として取得
		603.63 (食堂棟)	
		4,891.48 (西棟) (附属クリニック)	
		10,939.69 (南棟)	
		30.64 (スポーツ施設管理棟)	
		5,422.25 (桜棟)	
		234.16 (部室棟)	
		5,425.79 (葵棟)	
		673.31 (和棟)	
		1,070.90 (柔棟)	
森ノ宮医療大学 計	32,936.65	36,485.00	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本4丁目1番8号)	1,560.22	5,253.67 (本校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本3丁目15番11号)	530.56	936.74 (緑橋校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本2丁目5番41号)	1,329.40	1,454.19 (アネックス校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 計	3,420.18	7,644.60	
総合計	36,176.83	44,129.60	

(2025年5月1日現在)

5. 役員の概要

・定員数：理事 8～14 名/監事 2～4 名 ・現員数：理事 10 名/監事 2 名

役 職	氏 名	役員就任年月日	選任区分	備考
理事長	清水 尚道	平成22年11月	7-1-1	森ノ宮医療学園専門学校 校長
常務理事	青木 元邦	平成27年4月	7-1-1	森ノ宮医療大学 学長
常務理事	安田 実	平成11年5月	7-1-2	
常務理事	荻原 俊男	平成23年4月	7-1-3	
理事	瀬川 敏未	令和5年11月	7-1-3	森ノ宮医療学園法人本部長
理事	石塚 充弘	令和5年11月	7-1-3	森ノ宮医療学園専門学校 副校長
理事	尾崎 朋文	平成25年4月	7-1-2	
理事	上條 藤夫	令和4年12月	7-1-2	外部理事
理事	松浦 成昭	平成31年4月	7-1-3	外部理事
理事	笠山 宗正	平成31年4月	7-1-3	外部理事
監事	小林 由幸	平成14年10月		
監事	日根野 健	令和4年10月		

(2025年5月1日現在)

6. 評議員の概要

・定員数 17～29 名 ・現員数：23 名

氏 名	選任区分	氏 名	選任区分	氏 名	選任区分
山下 仁	25-1-1	房前 素徳	25-1-2	鈴木 信	25-1-3
鍋田 智之	25-1-1	浜田 暁	25-1-2	赤丸 敏行	25-1-3
松下 美穂	25-1-1	清水 尚道	25-1-2	安田 実	25-1-3
吉村 弥須子	25-1-1	尾崎 朋文	25-1-2	青木 元邦	25-1-3
石塚 充弘	25-1-1	河内 明	25-1-3	吉岡 敏治	25-1-3
瀬川 敏未	25-1-1	森 優也	25-1-3	前川 佳敬	25-1-3
在川 洋平	25-1-1	小島 賢久	25-1-3	上條 藤夫	25-1-3
森谷 正之	25-1-1	葉山 直史	25-1-3		

(2025年5月1日現在)

7. 教職員の概要

学校・事業所	区分	人数	備考
森ノ宮医療大学	本務教員	154	学校基本調査に基づく
	本務職員	75	学校基本調査に基づく
森ノ宮医療学園専門学校	本務教員	21	学校基本調査に基づく
	本務職員	15	学校基本調査に基づく
法人本部その他事業所	本務職員	19	

(2025年5月1日現在)

8. その他

■主な連携先

締結年月日	連携先機関等（現在の名称）	連携の種類	備考
H22.4.6	地方独立行政法人大阪病院機構 大阪急性期・総合医療センター	相互連携	大阪府立急性期・総合医療センターから 改称（2017/4/1）
H23.7.11	医療法人協和会 千里中央病院	相互連携	
H23.12.9	医療法人錦秀会	相互連携	
H25.5.27	公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院	相互連携	
H26.1.9	大阪府住之江区	包括連携	
H26.1.15	医療法人協和会	相互連携	
H26.6.3	高槻市教育委員会	連携協定	
H26.11.19	医療法人社団有隣会 東大阪病院	相互連携	森ノ宮医療大学保健医療学部との連携
H26.11.25	吹田市教育委員会	連携協定	
H27.2.19	学校法人相愛学園 相愛大学	包括連携	
H27.3.9	社会医療法人景岳会 南大阪病院	相互連携	
H27.4.15	大阪市教育委員会	※	※ボランティアについての協定
H27.7.27	守口市教育委員会	連携協定	

H28.1.29	社会福祉法人帝塚山福祉会	相互連携	
H28.6.13	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター	相互連携	大阪府立成人病センターから改称 (2017/4/1)
H28.8.22	学校法人常翔学園	※	※スタッフディベロップメントにおける 大学間連携
H29.2.24	社会医療法人純幸会 関西メディカル病院	相互連携	
H29.10.5	株式会社かなえるリンク	相互連携	森ノ宮医療大学保健医療学部との連携
H30.1.18	放送大学	単位互換	
H30.1.26	公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院	相互連携	日生病院から改称 (2018/4/30)
H30.4.19	ミズノ株式会社	包括連携	高等学校への活動支援、 地域への社会貢献活動 等
H30.11.1	近畿大学病院	相互連携	
H30.12.3	大阪重粒子線センター	相互連携	
R2.9.7	社会医療法人愛仁会	相互連携	大学院看護学専攻 NP コース開設に 向けての協力
R2.10.5	独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪みなと中央病院	相互連携	学生の救急時の受入
R2.11.30	イカリソース株式会社	相互連携	学校法人森ノ宮医療学園としての連携
R2.12.21	独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院	相互連携	

R3.6.7	西日本旅客鉄道株式会社 近畿統括本部大阪支社	相互連携	学校法人森ノ宮医療学園としての連 携大阪環状線 60 周年を契機とした 鉄道事業を通じた協力
R3.8.23	レッドハリケーンズ大阪	相互連携	BIODEX 利用を通じた学術データ提供、 地域活性化 NTTドコモレッドハリケーンズ大阪から改称 (2023/7)
R4.4.26	西尾レントオール株式会社	相互連携	新型コロナウイルス職域接種の共同実 施、熱中症予防に関する共同研究
R4.5.30	医療法人錦秀会 阪和いずみ病院	相互連携	医療法人聖和錦秀会から変更 (2026/4/1)
R4.9.16	大阪市	包括連携	市民サービスの向上と大阪市内におけ る地域活性化の推進
R5.8.4	独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター	相互連携	
R5.10.16	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院	相互連携	
R6.12.24	学校法人OCC	包括連携	学校法人森ノ宮医療学園としての連携
R7.12.19	宗教法人在日本南プレスビテリアンミッション 淀川キリスト教病院	相互連携	
R8.2.12	医療法人渡辺医学会	相互連携	
R8.3.16	社会医療法人大阪国際メディカル＆サイエンスセ ンター大阪けいさつ病院	相互連携	

II. 実施事業と成果

1. 森ノ宮医療大学

【サマリー】

開学19年目を迎えた2025年度は、第3期中期計画の2年目として「西日本トップの医療系総合大学」としてのブランディングを強化すべく、これまでの基盤をさらに発展させる新たな施策を展開した。

【教育面：質の保証と学修環境の高度化】

教育面では、開学以来推進してきた「チーム医療教育」をさらに強化した。その象徴として、実践的なシミュレーション教育施設「シミュレーションセンター（T-MIC）」を新設。単なる知識・技術の習得にとどまらず、職種の専門性を超えた臨床現場の再現を通じて、実践力とチーム力を養成。他職種の業務内容を具体的にイメージできる高度な教育環境を整備した。また、T-MICはオープンキャンパス等の場でも活用され、高校生や保護者にリアルな医療現場を体験する機会を提供し、募集力強化にも大きく寄与した。また、鍼灸学科においては新たに「AT（アスレティックトレーナー）コース」を設置し、より専門性の高い人材育成体制を整備した。さらに、教学面では「教学マネジメント委員会」を設置し、学生の学修成果の最大化と教育の質保証を組織的に推進する体制を構築した。

大学院教育においては、保健医療学研究科看護学専攻の更なる充実を目指し、2027年度「老年看護CNS（専門看護師）教育課程」開設に向け、認定審査申請の準備を本格化させた。

入試および入学者支援においては、多様な人材を確保するため、地方試験場の設置等による遠隔地からの受験生に配慮した入試制度を継続し、受験機会の多様化を維持した。さらに入学前教育として、本学へのスムーズな学修移行を目的とした「プレキャンパス」をより充実させ、入学予定者の不安解消と意欲向上を組織的に支援した。

【研究面：外部資金獲得と発信力の向上】

研究面では、科研費を中心とした外部資金の獲得に注力した。前年度に実施した専門家によるセミナーや申請書の添削指導が実を結び、2025年度は計15課題が新規採択される成果を得た。研究成果の発信も積極的に行い、医歯学部を除く西日本エリアの医療系大学においてトップクラスの論文数を記録した。これらの活動を支えるべく、学長賞や学長研究奨励金制度を拡充し、教員の研究モチベーション向上を図った。

【地域連携・社会貢献：万博との連動と社会還元】

地域連携においては、2025年大阪・関西万博の開催地に最も近い大学として多角的に参画した。8月には大阪ヘルスケアパビリオンにて、インクルーシブ医科学研究所による「WalkCare」を出展し、800名を超える来場者を得た。また、関西5大学による共創活動を通じて、万博のテーマである「いのち輝く未来社会」の実現に向けた提言を行った。

さらに、新たな社会貢献の形として、無印良品 グランフロント大阪との共同企画「MORI'sからだコンパス」を定期開催したほか、JR西日本と「救急フェア IN 京橋駅前」を共催した。一般市民を対象とした一次救命処置の体験会を実施するなど、医療機関のみならず企業や自治体等と強固に連携し、本学の専門的知見を広く社会に還元した。これらの活動を通じて、市民の健康づくりと安全な社会形成を継続的に支援する体制を一層強固なものとした。

【総括と展望】

以上の取り組みを通じ、在学生、卒業生、保護者、地域住民など、あらゆるステークホルダーに対する満足度向上とブランディングを推進した。今後も地域に根差した医療系総合大学として、教職員および附属クリニックが強固に連携し、社会連携・地域貢献事業に積極的に邁進していく。

(1) 実施事業概要および成果

【看護学部】

2022年度に看護学部、保健医療学研究科看護学専攻として独立し、看護学教育・研究における新たな段階に入って4年目を迎え、文科省のアフターケアの指摘事項である「教員の定着による看護学教育・研究の質向上」をさらに推進するために、助産学専攻長を看護学科母性看護学教授が兼務し教育の相互扶助の仕組みを構築し、看護学部看護学科・保健医療学研究科看護学専攻・助産学専攻科を包含した看護学系ユニットとして連携・協働する運営をさらに推進した。

看護学科では、看護系大学協議会が策定し、文科省が推奨する「看護学教育モデル・コア・カリキュラム【令和6年度改訂版】」(コア・カリ)に対応し、且つ、前年度に再構築した新DPを達成するための2026年度カリキュラムを教員総出で策定し、文科省への届け出を完了した。

大学院看護学専攻はACを終了した。前期課程では、「看護教育学」「看護管理学」「急性・慢性・がん看護学」「老年看護学」「精神看護学」「在宅看護学」「育成看護学」「公衆衛生看護学」の8つの専門分野のコースワークを整備した新カリキュラムの1期生が修士号を取得した。また、2027年度稼働を目指して老年看護CNSコース設置プロジェクトを稼働させた。後期課程では、2025新カリキュラム生については、合同ゼミ形式の授業が功を制し、各自の研究計画に沿って学修進行中であるが、1期生・2期生の研究活動停滞に対する支援を要する。

助産学専攻科では、看護学科母性看護学教授が助産学専攻科長を兼務する体制を始動し、実習指導期間の適正化、教育方法の適正化を図った結果、例年のように心身の不調を呈する学生はなく、延長実習を行う必要もなく経過し、全員が国家試験に合格した。また、在学生を巻き込んだ受験生増加への活動を強化した結果、定員10名の入学者確保を達成した。

【看護学部 看護学科】

教育の質向上の取り組みとして、前年度までに再構築した5つのDPを達成するための2026年新カリキュラムを策定した。2026年度以降、文科省が推奨するコア・カリが今後の看護系大学の標準となることから、5つのDPとコア・カリで提示されている基本的な資質・能力との整合性を確認し、knows⇒knows how⇒shows how⇒doseの順に知識・技術を統合しながら実践力を構築していけるようカリキュラムを構造化した。その上で、各科目のシラバスは、学習到達目標とDPを紐付けるとともに、コア・カリで示された第4階層到達度を網羅するよう綿密に策定した。カリキュラム策定は、学科長のリーダーシップのもとに、各専門領域の代表で構成された教務部会を中心に、全教員体制で取り組み、文科への届け出を完了し、2026年度に稼働する。

ICT活用による教育の質向上の取り組みとして、2025年度入学生から、電子教科書を導入し、滞りなく活用できた。医療用シミュレーターの活用に加えて、ナースングスキル・システムを導入し、基礎看護学および成人看護学分野の演習・実習における自己学習での活用を推進した結果、2年生の診療援助論の事前学習での利用度が高かった。3年生の臨地実習及び卒業前の自己学習での活用を推進する必要を確認した。

国家試験対策の取り組みとして、低学年模試を導入して早期からの動機づけを行った。4年生に対しては、学生の主体性を重視する支援へと方向転換を図りつつ、模擬試験の成績下位の学生に対しては、担任・チューターが個別指導を強化する等、学生の状況に応じた支援を実施した。結果、看護師国家試験の結果は1名不合格で合格率は98%であり、合格率100%連覇は潰えた。保健師国家試験は全員合格で、7年連続合格率100%を達成した。不合格学生はノーマークであったが、中の下あたりに位置する学生であったことから、知識の定着を図る介入の必要性が示唆された。

教員の研究力向上については、研究の適切な実施を支援する看護学研究倫理予備審査の仕組みが稼働して2年目となり、申請数24件で微増したものの、博論、修論、卒研の関連する申請が過半数を占めた。科研費の新規申請は17件で、積極的に申請しているものの、新規採択は0件、継続4件という結果であった。また、研究成果として、筆頭著者の査読付き論文は、和文4編で低迷が続いている。これらの結果から、教員の研究力を高めるための組織的取組の見直しと強化の必要性が示唆された。

【総合リハビリテーション学部】

2025年度は総合リハビリテーション学部の完成年度であり、リハビリテーションに関わる3職種のすべてが揃うことで充実した教育・研究環境が整備された。学部開設に合わせて竣工した葵棟では、オープンキャンパスでの理学療法学科と言語聴覚学科の学科紹介を葵棟に集約して実施可能となり、新たな機器類を使った体験や在校生との交流を通じて本学および本学部の特徴を知ってもらう良い機会となっている。既存のC棟での作業療法学科のオープンキャンパスプログラムとともに、3学科が揃った総合リハビリテーション学部の特徴を受験生や保護者に浸透させることに貢献しているものとする。

学生教育では、今年度後期から総合リハビリテーション学部3学科合同プログラム(コース制)が開講し、3学科から多くの受講者を得てその満足度も高いものとなった。

地域貢献として、7月には「ひらめき☆ときめきサイエンス」のプログラムを昨年に引き続いて言語聴覚学科の教員と学生の協力を得て葵棟で実施し、小学生に言語聴覚士やリハビリテーションの仕事について知ってもらう機会を提供した。さらに、コース制イベントとして、10月の大学祭と同時開催で地域に住む子供たちが楽しめるプログラムを開催し、学部教員と学生の協力を得て多くの参加者を迎えることができた。

一方、2025年度入学者は、3学科のすべてで定員を充足し、また出身校の学力レベルも上昇傾向にあり、学生自身が有する能力は高いレベルにある。本年度卒業生の国家試験合格率は、学生と教員の努力により理学療法士国家試験、作業療法士国家試験ともに100%の合格率を達成した。今後も、リハビリテーション3職種の養成校として学生が有する能力を十分に伸ばすとともに、それぞれの職種に対する向上心の涵養や自己の将来に対する明確な目的意識を持てるような教育を実践して学生満足度を上げ、入学者全員が4年で国家試験合格に至るよう学科間で協力して環境を整備していく。

【総合リハビリテーション学部 理学療法学科】

2025年度は「領域制」に加え領域間連携による「ユニット制」を導入し、プロジェクト推進と社会貢献による大学認知度向上を図った。大阪万博へのブース出展は高く評価された。学生教育ではCBTによる基礎学力強化、外部評価者導入によるOSCEの質的改善、超音波エコーを活用した教育の定着に取り組んだ。また研究エフォート確保のため業務整理・圧縮を推進した。主要指標の結果は以下のとおりで、継続的な見直し、改善を進める。

国家試験合格率：現役生100%（前年度98.2%）を達成した。

4年卒業率：16期生の卒業率は90%（前年度71.4%）と大幅に改善した。

科研費・論文：2025年度科研は新規3件・継続5件、2026年度は新規2件・継続6件。論文は英文17本・和文1本。

大学院進学：2025年度は修士4名・博士5名（うち本学卒業生4名）が入学。2026年度は修士4名・

博士2名入学予定。

就職：就職率は100%であり、実習登録施設への内定率は66.1%（2024年度）から91.2%へ向上し、目標の80%を上回った。

学生満足度：臨床実習の満足度向上のため希望調査、実習地とのマッチングを考慮した実習配置を組むことにより満足度が約75%（前年50%）に向上した。次年度は国家試験対策・卒業研究支援の強化と低年次からの学習支援充実を図る。

志願者数：オープンキャンパス参加者は450名（前年度602名）と減少したが、学科志望者延べ人数は1074名（前年度960名）と12%増加した。一方、第1志望実志望者数は181名（前年度197名）とわずかに減少したため、広報課と連携し魅力的な企画立案で志願者増を目指す。

【総合リハビリテーション学部 作業療法学科】

2025年度は総合リハビリテーション学部の完成年度であり、リハビリテーションに関わる3職種のすべてが揃うことで充実した教育・研究環境が整備された。学部開設に合わせて竣工した葵棟では、オープンキャンパスでの理学療法学科と言語聴覚学科の学科紹介を葵棟に集約して実施可能となり、新たな機器類を使った体験や在校生との交流を通じて本学および本学部の特徴を知ってもらう良い機会となっている。既存のC棟での作業療法学科のオープンキャンパスプログラムとともに、3学科が揃った総合リハビリテーション学部の特徴を受験生や保護者に浸透させることに貢献しているものと考えている。

学生教育では、今年度後期から総合リハビリテーション学部3学科合同プログラム（コース制）が開講し、3学科から多くの受講者を得てその満足度も高いものとなった。

地域貢献として、7月には「ひらめき☆ときめきサイエンス」のプログラムを昨年に引き続いて言語聴覚学科の教員と学生の協力を得て葵棟で実施し、小学生に言語聴覚士やリハビリテーションの仕事について知ってもらう機会を提供した。さらに、コース制イベントとして、10月の大学祭と同時開催で地域に住む子供たちが楽しめるプログラムを開催し、学部教員と学生の協力を得て多くの参加者を迎えることができた。

一方、2025年度入学者は、3学科のすべてで定員を充足し、また出身校の学力レベルも上昇傾向にあり、学生自身が有する能力は高いレベルにある。本年度卒業生の国家試験合格率は、学生と教員の努力により理学療法士国家試験、作業療法士国家試験ともに100%の合格率を達成した。今後も、リハビリテーション3職種の養成校として学生が有する能力を十分に伸ばすとともに、それぞれの職種に対する向上心の涵養や自己の将来に対する明確な目的意識を持てるような教育を実践して学生満足度を上げ、入学者全員が4年で国家試験合格に至るよう学科間で協力して環境を整備していく。

【総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科】

学科開設2年目となる2025年度は、開設初年度と同様、設置申請内容の着実な履行、臨床実習体制の構築、学生募集、国試対策、仲間づくりを含めた学生満足度向上を学科の主な課題として取り組んだ。

設置申請内容の履行に関して、見直しや修正作業が必要となる事案は発生しておらず、2025年度適用の新指定規則に沿った新カリキュラムも順調に進行している。

言語聴覚士は有資格者数が少なく、臨床実習施設の確保がきわめて困難な状況下にある。開設初年度から臨床実習担当の学科教員を中心に実習施設確保の体制づくりを行い、計画的に実習施

設確保に取り組んだ。その結果、開設初年度中に2年次秋学期の臨床実習Ⅰ、開設2年目に3年次後期の臨床実習Ⅱに必要となる実習施設数を確保することができた。

学生募集については対面で志願者と接する機会を重要視し、在校生からの情報発信を含めた魅力あるオープンキャンパスを立案し、学内外の広報機会（高校出張講義等）に積極的に取り組んだ。その結果、一般選抜前期出願者数は、前年度比較で総志願者数が121.8%、第一志願者の総志願者数と実志願者数はともに150.0%と増加した。

国家試験対策については、国試担当の学科教員を中心に4年間の国家試験対策のスケジュールを立案し、基礎学力の向上および学修習慣の定着に取り組んだ。各学期末に実施した任意の「振り返りテスト」は全員が受験しており、日頃の学修の重要性や国家試験対策の早期開始の意識付けが学生に理解された結果と考える。

仲間づくりを含めた学生満足度向上への取り組みとして、講義・演習内でグループ単位の体験や活動を頻回に取り入れ、ホームルームや学科内交流会などを企画、実行した。言語聴覚学科の学生が多数を占める手話同好会の顧問を学科教員が担当した。

研究面では、科研の継続課題が4件、学科教員による査読付き論文は和文1編であった。第6回大阪府言語聴覚学術大会を本学にて開催し、大会長を大根教授、準備委員長を中谷教授、準備委員を言語聴覚学科教員がつとめ、言語聴覚学科の1年生と2年生も学生スタッフとして参加した。

地域および社会への貢献活動として、区民カレッジ、失語症者向け意思疎通支援活動、もりもり健康長寿サロン、ほほえみクラブなどに学科教員が参画した。加えて、2月と3月にUR都市機構と共催で言語聴覚学科の教員と学生スタッフによる「健康チェック測定会」を実施した。

【医療技術学部】

本学部は2022年、臨床検査学科、臨床工学科、診療放射線学科、鍼灸学科の4学科体制で開設された。関西圏で唯一、高度な医療機器を扱う「医療技術系3学科」を同一キャンパス内に擁しており、教員陣および施設設備の両面において国内有数の教育環境を実現している。本年度、鍼灸学科においては新たに「AT（アスレティックトレーナー）コース」を設置。従来の鍼灸コース、スポーツ特修コースと合わせた3コース制へと移行し、より専門性の高い人材育成体制を整備した。

教育面では、4学科の学生が合同で履修する、学部独自の教育プログラムを推進している。本プログラムは「臨床現場に必要な実践的知識・技術の修得」を目的としており、学科の垣根を超えた多職種連携への理解を深めると同時に、高度化・多様化する医療ニーズに対応し得るスキルの醸成に寄与した。また、国家試験合格率は全学科で全国平均を上回る高水準を維持。特に臨床検査学科における細胞検査士認定試験では、昨年度に引き続き全国トップクラスの合格率を記録した。

運営面においては、キャリア支援課との緊密な連携により、医療機関のみならず一般企業を含めた高い就職実績を継続している。また、企画・広報課との連携による戦略的な広報活動が奏功し、実志願者数の増加を達成した。さらに各学科において、早期病院見学実習や学会発表、「ひらめき☆ときめきサイエンス」等のイベントを通じた学生の社会貢献活動も活発化しており、これら一連の取り組みが学部ブランディングの更なる向上へと繋がった。

【医療技術学部 臨床検査学科】

2025 年度の臨床検査学科は、①臨床検査学科第一希望入学志願者の確保、②国家試験目標合格率100%、③学生満足度の向上、④就職率100%を課題としてきた。

「臨床検査学科第一希望入学志願者の確保」

臨床検査学科 第一希望入学志願者数延べ人数（実人数）は、2023年度467名（170名）、2024年度は411名（132名）、2025年度620名（165名）と西日本医療系私立大学のトップクラスの受験者数となっている。今年度より医療技術学部選択授業が開講、定数80名を大幅に超える150名の学生が本講座を希望した。今後も医療技術学部の内部連携を強化し、入試課・広報課の協力のもとに高校生へ医療技術の魅力と必要性をアピール、医療技術学部への入学志願者を増やすことで、学力の高い学生の獲得を目指す。

在学中に知識の向上と専門職資格を習得できる細胞検査士資格取得コース第3期生の講座が修了、修了生は細胞検査士認定試験を受験した。結果、13名中12名が合格した。細胞検査士認定試験の全国合格率は30%程度である。細胞検査士コース開講年度から3年間の合格率は91%であり、全国トップクラスに位置する。

「国家試験目標合格率100%」

国家試験対策は、3年生後期の特別補講による基礎学力の向上、国家試験1か月前から成績下位者への「集中囲い込み国家試験対策の強化」をスケジュールに組み込んだ。結果、新卒合格率100%にはおよばなかったが、2025年度新卒者は96%と全国平均を上回る高い水準であった。また、新卒国家試験合格者数は、2023年度55名、2024年度60名、2025年度70名と増加した。国家試験合格者数は医療系私立大学西日本第3位となった。2025年度も若手教員を中心に学生の学力に応じた指導の強化、1年次から国家試験を見据えた授業を行い、教員・学生一丸となって国家試験合格率100%を目指したい。

「学生満足度向上」

学生満足度調査を2024年の結果をもとに2025年度学生満足度向上計画を立てた。2024年度本学に在籍していることに満足している学生は全体の65%であり、入学時のモチベーションより低下する学生が一定数存在してきた。今年度はその対策として1年生で実践臨床を経験できる授業、2年生で実習授業の充実、3年生でキャリアアップ、4年生で国試対策の充実を推進してきた。

「就職率100%」

就職については、キャリアセンターと協働し進めてきた。2025年度国家試験合格者の就職率は3月26日の時点で67名（96%）と4年生私立大学全国平均88%を大きく上回り、全国トップレベルになった。

【医療技術学部 臨床工学科】

2025年度の取り組みは国家試験合格率100%、学習習慣の確立と日常の自己管理、学生確保の取組、教員の研究活動と研修の充実といった内容である。

2025年度は国家試験対策として早期段階より補講・学内模試を順次行い学力低下が弱点であった4年生への勉強指導アプローチをおこなった。webアプリの活用、対面補講の強化、学内模試の回数増、フィードバックの実施に重きを置いた。また、個別指導に対して、早期にとりかかり実施することができた。結果、学生理解度向上に繋がり全国合格率65.7%のところ本学科は国家試験合格率85.7%に至ったと考える。

1年生ではアメリカ心臓病協会（AHA）による一次救命処置（BLS）プロバイダーコースで12名の学生が合格し修了認定を受けた。2～3年生ではチーム医療見学実習、早期病院見学実習（大阪医療センター、大阪急性期医療センター）、解剖見学実習といった行事により臨床工学技士のイメージが膨らんだと好評であり、将来像の一助になった。

就職活動として企業就職も視野に入れた学生も増え3年生3月時点で2名の内定が決定した。病院就職先として近畿圏内が多く続く中、2025年度は信州大学医学部附属病院や静岡市民病院などからも内定を勝ち取り、遠隔地へも臨床工学技士としてやるべき仕事を学生自ら選ぶ力を身につけ就職に取り組めた年であった。学生間でのレクチャーも学年を越えて勉強会を実施できた。また、学生間での交流の場として9月に臨床工学科ボーリング大会と称した、全学年希望制による参加で他学年での交流を深めた。一方で、学生の中にはモチベーション維持に苦勞した学年では休学・退学もあったが25年度は減少傾向であった。

4年卒業率90%目標であるが、教員一丸となり保護者を交えた面談により臨床工学技士になりたい意欲や、興味を引き出せたことが評価につながる。4年生では、卒業試験の中間結果による保護者を含む4者面談を実施し、国家試験への取り組みや卒業単位への周知説明を行う事で大学・家庭・学生とのトライアングルで信頼の基盤を築くことができ、3月の国家試験まで精神面でのサポートも届いたと感じる。

学生確保の取組については、サマースクールやひらめきときめきサイエンスといった従来から実施してきたイベントを実施でき、臨床工学技士への注目度が高まることを期待するとともに、広報課と協同し、本学科の周知が前進したと思われる。また、広報課と連携し高校訪問だけでなく出張講義を実施し、企画課との連携では小中学生対象の職業説明にも参加し医療について・臨床工学について話す機会を得実施できたことに満足できる。これにより将来を見据えた低学年層からの臨床工学技士という職種を知るきっかけになった。25年度入試募集では第2希望、第3希望も多く、臨床工学という周知のため新たに2小・中学生対象の訪問強化に努める。25年度入学生は定員数の60名を超え82名の学生を迎えることができた。26年度入試では第1、第2、第3志願者数が全体的に増加傾向である。22年度、23年度、24年度のオープンキャンパス実施でのキャンパスフリーウォークが大きく反映された結果と推測される。（のべ受験者数：第一希望：98名、第2希望：216名、第3希望：174名）

2025年度「国家試験合格率 100%」を目標に掲げ、結果：国家試験合格率は 新卒85.7%(54名/63名) (全国：65.7%) となった。就職率（進学を含む）は 100%となり、5期生も4月時点で実現となり総合的に高い結果であった年度である。

教員研究/活動では、4年連続ひらめきときめきサイエンスが1名の採択となった。また、9月に教員2名がチュニジアのチュニス・エルマナール大学へ訪問し現地学生に講義を実施した。論文業績については、研究発表は多くあるものの、25年度の査読付き論文作成受理されたものは2編であった。教員の離職もなく教員個別面談を実施し問題点を早期に把握し改善することで充実した環境を整え、学生に還元できるよう学生育成に尽力できたと評価する。全国的にも臨床工学は森ノ宮医療大学が他の養成校からも注目され、目標にされる側になってきた。

【医療技術学部 診療放射線学科】

2025年度は、第3期中期計画2年目として、学園目標である「西日本トップ!」の実現に向け、「入口対策」「在学中対策」「出口対策」「研究・社会貢献」の4領域を柱として各種事業を推進した。前年度に整備した体制を基盤に、国家試験対策の充実、学生支援体制の強化、就職支援の推進、教育研究活動の活性化に継続して取り組んだ。

「入口対策」

入学者確保に向けては、学科の特色や職業の魅力を広く発信するとともに、オープンキャンパスで体験型企画や卒業研究紹介などを実施し、進学希望者の理解促進に努めた。その結果、オー

ブンキャンパスをはじめとする各種イベント参加者は925名となり、2024年度（956名）と大きく変わらない状況であった。また、実志願者数は293名となり、2024年度（337名）に近い水準で推移した。18歳人口の減少が進む厳しい募集環境の中にあっても、学科の特色発信と広報活動を継続し、志願者の確保に努めた。

「在学中対策」

学生の学修支援では、模擬試験、フォローアップ講座、ステップアップ講座等を計画的に実施し、基礎学力および専門知識の向上を図った。加えて、担任・チューターによる定期面談に加え、必要に応じて学科長面談や保護者を交えた面談を行い、成績不振学生への早期対応に努めた。また、保護者懇談会や学科だよりを通じて保護者との連携を深め、学修面・生活面の両面から学生を支援する体制の充実を図った。

「出口対策」

就職支援では、就職ロードマップの活用、企業・医療機関説明会の実施、関連団体との連携強化などを通じて、低学年から進路意識を高める取組を進めた。その結果、2025年度の就職率は約90%（2月末時点）であった。国家試験対策についても、出題基準に基づく問題分析、補習、模擬試験の実施などを通じて学力向上を図り、国家試験合格率は84.8%であった。

「研究・社会貢献」

教育研究面では、科研費申請の推進、研究体制の整備、外部講師を招いた授業の実施に加え、卒業研究の充実を図った。2025年度は、全国規模の学会で学生による14演題の発表を行い、教育・研究活動の活性化につなげた。また、高等学校等への出張講義や地域向け企画にも取り組み、診療放射線技師の職業理解促進と地域社会への貢献を進めた。

以上のように、2025年度は中期計画に基づく各施策を着実に推進し、学科の教育力、学生支援力および社会的発信力の向上に努めた。

【医療技術学部 鍼灸学科】

学生募集に関しては、中期計画および事業計画において掲げている第一希望者数100名の確保を目標として取り組んできた。その結果、実志願者数は82名から98名へと増加し、目標に対して約98%の達成状況となった。これは、オープンキャンパスにおいて広報担当教員をはじめ学科教員全員が来校者のニーズに寄り添い、丁寧な対応を行うとともに、本学科の多様性と魅力を的確に発信した成果であると考えられる。また、実参加者数も162名から220名へと増加しており、受験生および保護者への訴求力が向上していることが示された。これらの結果から、学生募集に関しては概ね計画どおりに進捗していると評価できる。今後は目標の完全達成に向け、広報内容のさらなる精査と継続的な改善を図る。

国家試験対策については、合格率100%および合格率大学日本一を目標として取り組んできた。2025年度の結果は、はり師88.7%、きゅう師94.3%であり、いずれも全国平均（はり師67.2%、きゅう師70.5%）を大きく上回った。本年度は例年より難易度が高い傾向にあったが、その中でも安定して高い合格率を維持しており、教育の質は十分に担保されていると評価できる。一方で、目標である合格率100%には到達しておらず、特にはり師において課題が残る結果となった。今後は不合格者の要因分析を踏まえた個別支援の強化および指導体制の見直しを行い、目標達成に向けた改善を進める。

教員養成に関しては、教員採用試験において現役生1名、既卒生3名が合格し、大阪市中学校（支援学級）2名、同（保健体育）1名、豊能地区中学校（保健体育）1名という成果を得た。さらに、

福岡県において常勤講師3名の採用も決定しており、一定の成果が認められる。また、現1年生においてスポーツ特修コースの希望者が増加しており、将来的な人材育成基盤も強化されつつある。これらの結果から、教員養成については概ね順調に進捗していると評価できる。今後も継続的かつ体系的な支援体制の充実を図る。

研究活動については、年間5編の査読付き論文発表を目標としているが、2025年度は和文1編、英文2編の計3編にとどまり、目標未達であった。この点は明確な課題であり、研究時間の確保や共同研究の推進など、研究体制の強化が必要である。今後は他学科・他学部との連携を一層強化し、研究の質と量の両面の向上を図るとともに、目標達成に向けて継続的に改善を進めていく。

【森ノ宮医療大学附属鍼灸臨床センター】

2025年4月に西棟1階から和棟1階に移転した。ブースの広さ、施設の明るさなどが向上したが、人の流れから外れ、看板未設置のため存在感が薄れた面は否めない。総患者数は6年ぶりに1700名台に到達したが目標の2000名には届かなかった。対象曜日のスタッフ数減少に伴って一般料金4,000円の患者数が大きく減少した。職員患者の減少は移転に伴って距離が離れた結果と考える。学生患者数や美容鍼灸患者数が増加したのはMORIPAを利用した全学生への周知や他学科授業での説明が効果的であったと考える。総患者数は増加したが一般患者および職員患者が減少したことで前年度比56,200円の減収となった。初診患者の動向では市民公開講座を実施した翌月（10月、3月）に増加しており、広報の重要性を再認識した。

2026年度は予約時間を1時間毎に変更して診療枠を増やす。また、受付スタッフの常駐、診療スタッフの増員を得られたことから、患者数2000名、収益500万円を目標とする。広報やスタッフの専門性アピールを充実させたい。また、臨床研究を実施して大学附属機関としての務めを果たしたいと考える。

【大学院保健医療学研究科】

「学生募集」

2025 年度に実施した入試において保健医療学専攻修士課程 10 名、医療科学専攻博士後期課程 4 名、看護学専攻博士前期課程 3 名、看護学専攻博士後期課程 3 名の入学予定者を確保した。また、看護学専攻博士後期課程3 年の 3名が留年した。これにより 2026 年度の在籍院生は保健医療学専攻修士課程 14 名、医療科学専攻博士後期課程15名、看護学専攻博士前期課程4名、看護学専攻博士後期課程7名となった。

「授業関連」

対面および一部にオンラインを併用して授業を実施し、おおむね予定通りの授業と研究指導が遂行できた。

「学位授与」

保健医療学専攻において6名の修士（保健医療学）、医療科学専攻において 1 名の博士（医療科学）、看護学専攻において 2 名の修士（看護学）の学位を授与した。

「定員の適正化」

2027年度に予定されている老年看護CNSコース開講に合わせて、入学定員を 9名 から 6 名に減員し、適正化を図る方針を決定した。

「長期履修制度の導入」

社会人大学院生等のさらなる募集を目指し、2027 年度から長期履修制度を導入する。2025年度

は学内規程の作成・関係省庁への届出準備・学内外への周知を進めた。

「学術セミナーの開催」

2022 年度からインクルーシブ医科学研究所との共催としており、2025年度は 4 回開催した。講師はいずれも本学教員であり延べ 6名であった。対面での実施とともに、受講できなかった教職員を対象にオンラインでも視聴可能としている。その結果、延べ 525名の受講者を得た（対面・オンラインの合計：一部未集計）。

「未来のがん医療を支える医療者養成コース（インテンシブコース）」

2025年度は、受講者2名に対して修了証を授与（累計3名）。

【助産学専攻科】

助産学専攻科は、教育の質向上に向け学生の満足度を高めることを目指し、授業の実態と課題を明らかにした。修了時の学生および教員を対象に教育目標および技術目標の到達度を調査した結果、教育内容の偏りが明らかとなり、2026年度の授業に反映するように改善した。看護教育で体験が乏しい分娩介助など演習は、シミュレーションを積極的に活用し、知識と技術を統合し円滑な実習へ繋げた。2026年度OSCEや電子教科書の導入にむけ教員はOSCE研修を受講しICT教育の促進に努めた。

学生定員充足率100%にむけて新規実習施設を確保し、10名全員が実習を実現できる施設との調整を務めた。学生数の確保には、オープンキャンパスの内容を見直した。他大学との差別化をはかるため本学の特色を明確にし、学生と教員の共同による新規企画を立案・実施した結果、参加者が大幅に増加した。オープンキャンパス参加人数の増加に伴い、受験者の倍率も5.7倍と向上し、2026年度入試合格者は10名の充足率が達成した。内部進学者促進にむけて全学年を対象としたオリエンテーションや面接を導入し、看護学科と連携して情報を共有したが、2026年度入学者は4名と前年度の人数に留まる結果となった。2027年度入試の対象となる看護学科4年生の助産師志望者は6名であり、次年度は達成が予測される。

助産師国家試験合格率10期連続100%にむけ、模擬試験結果の詳細な分析から成績不良の学生を特定し個別の支援と全学生を対象とした国家試験対策講座を企画した結果、10期連続の合格を達成した。就職率も100%を継続している。

【研究支援センター】

科研費等の外部資金獲得支援として、外部業者を利用し科研費セミナーを開催し、43名の研究者が参加した。また、学長推進研究支援事業としては、科研費研究計画調書 閲覧制度による支援、研究成果の社会発信や学内の研究活動活性化を目的にした「学長賞（優秀論文賞）」による表彰、効率的なチーム研究および個人における研究推進の両方を支援する「学長奨励研究費（発展的研究体制構築型）」「学長奨励研究費（研究基盤構築型）」を公募する等、様々な形で研究活動の支援を行った。

そのほか文部科学省「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」ならびに「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に準拠した研究機関としての体制の維持・構築、啓発ポスター掲示や大学経営・質保証会議（役員・事務局管理職対象）での不正事案の共有等を行い、教職員の意識改革を目指した。さらに、APRIN e-learning システムを利用した研究倫理教育（研究不正の防止）の実施、研究費コンプライアンス研修会による倫理教育（研究費不正の防止）の実施といった取り組みを行った。加えて、内部資金研究費の研究実態に応じた適

正配分による効率的な研究推進・研究活動支援、科研費・厚労科研等の外部資金研究費への応募・申請支援（研究計画調書の事務的確認・支援、交付申請・委託研究契約手続き等の実施、その他応募支援）、学術リポジトリ（web）上での「森ノ宮医療大学 紀要」の発刊、その他研究関連業務に取り組んだ。

森ノ宮医療大学 第9回 学長賞（優秀論文賞）
医療技術学部 診療放射線学科 教授 今井信也 Shinya Imai, Asuka Yamahata, Tatsuhiko Gotanda, Manabu Akahane, Yasuyuki Kawaji, Takuya Akagawa, Hidetoshi Yatake. Evaluation of factors influencing eye lens radiation dose while using radiation protection glasses in interventional radiology: A phantom study. European Journal of Radiology. 2025.
総合リハビリテーション学部 理学療法学科 教授 三木屋良輔 Ryosuke Mikiya, Chika Momoki, Yuko Sawada, Daiki Habu. Association between eating alone and motor function among community-dwelling older adults during the COVID-19 pandemic: a cross-sectional study. BMC Geriatric. 2025.
学長奨励研究費（発展的研究体制構築型）
研究代表者：インクルーシブ医科学研究所 所長 工藤慎太郎 共同研究者：堤真大、河西謙吾、中田光海、垣本晃宏、南都智紀 研究課題名：脊柱変形に対するリハビリテーションの可視化で挑む健康長寿社会の実現
学長奨励研究費（研究基盤構築型）
医療技術学部 臨床検査学科 准教授 関根将 研究課題名：鍼治療がつわり症状を改善するメカニズムの解明
看護学部 看護学科 助教 木村清子 研究課題名：日本に滞在する外国人留学生の健康管理をエンパワメントする教育システムの開発

【インクルーシブ医科学研究所】

設立6年目となり、1年目から取り組んできた科研費獲得および、研究論文数の増加が着実に実を結んでいる。具体的には2021年には36件であった英語論文は、2022年には59件、2023年は54件、2024年は61件、2025年は60件とハイペースを維持できた。この結果は西日本エリアの医療系大学（医歯学部養成校を除く）の中ではトップクラスの論文数である。特に、筆頭著者や責任著者が本学の教員となっている論文数は2021年で15件であったものが、2025年は26件と大幅な増加を維持した。

『健康長寿社会の実現』というインクルーシブ医科学研究所の研究テーマを掲げて、より基幹となる研究を発展させるための仕組み作りに着手し、その成果として、特に株式会社Toppan、株式会社フォーカスシステムズとの共同研究の内容をコンソーシアム“Walkcare”として、2025年大阪関西万博の大阪ヘルスケアパビリオン内で展示した。また脊柱の生理的湾曲を維持することで健康長寿社会の実現に向けた製品の開発を行うStyleブランド（株式会社MTG）との共同研究から生まれたソファ（Style sofa WL）の市場へのリリースも行い、健康長寿社会の実現というMINCLのコンセプトを産学連携においても発揮することができた。

【健康管理センター】

学生の健康管理、メンタルヘルスケア、実習前の感染予防対策等に関する学生への支援事業について教職協同で次の通り実施した

「健康管理関連」

- ・全学生対象、健康診断（健康診断後のアフターケア含む）
- ・新入生に対する健康管理調査に基づく個人面談
- ・総合補償制度Will（総合生活保険等）の対応
- ・附属診療所（大阪ベイクリニック）との連携による急病人対応等のサポート
- ・ダイバーシティセンターとの連携事業

「メンタルヘルスケア関連」

- ・公認心理師、看護師によるカウンセリングルームでの学生相談
- ・カウンセリング後のアフターケア
- ・こころとからだに関する情報提供（メールマガジン等）
- ・外部のカウンセリングシステムを活用した24時間365日の学生相談体制
- ・新入生メンタルヘルス調査（からだところの状態調査）

「実習前感染症予防対策等」

- ・学生の感染症抗体価の管理、指導
- ・附属診療所（大阪ベイクリニック）と連携し小児4抗体ならびにB型肝炎ワクチン、インフルエンザワクチン等の予防接種事業の実施

「臨地実習関連事項」

- ・臨地実習における実習前健康診断関連業務の一元化
- ・感染症予防対策に関する学生指導、書類手続き
- ・大阪ベイクリニックと連携し、実習前検診を実施

【学修支援センター】

学修支援センターは、学生の主体的な学修を支援し、学修習慣の定着と学力の向上を目的として、入学前教育から国家試験対策に至るまでの段階的かつ継続的な学修支援を展開した。2025年度は新たに在校生の文章力向上プログラムを実施した。新入学生を対象にレポート課題の「添削－フィードバック－指導」のサイクルを導入し、文章作成能力の基礎的な向上を図った結果、多くの学生が主体的に参加し、学修意欲の向上に貢献した。

また、既存事業についても強化を進め、入学前から卒業に至るまでのシームレスな学修支援体制の充実を図った。入学前学修支援では、学修コンテンツの提供や「welcome manabel」の配信、入学予定者向けプレキャンパスイベントなどを通じて学修意識の早期醸成に努めた。在学生に対しては、入学時プレイスメントテストによる学力把握を基盤として、基礎医学や専門科目を対象としたステップアップ講座を開講するとともに、キャリアセンターと連携したSPI対策講座、VODコンテンツ配信による自主学習支援、卒業生によるメンター制度の運営など多面的な支援を展開した。さらに、ICT活用支援やME2種、心電図検定などの資格取得支援も含む幅広い支援を行った。これらの取り組みにより、基礎学力の補強から専門教育、国家試験対策に至るまでの包括的な学修支援体制を整備し、学生の主体的な学修の促進と学修成果の向上に寄与した。

【キャリアセンター】

キャリアセンターは、看護学部、総合リハビリテーション学部、医療技術学部、大学院の教員と事務局職員の教職共同で学生の教育・研究等、学生の就職活動、ボランティア、アルバイト等を支援し、学生のキャリアアップと森ノ宮医療大学のブランド力向上を目指している。2025年度のキャリア支援は「就職支援とキャリアアップ」をポイントとした。「就職を考える」に関わるとして「知る（卒業生イベントの開催）」、「体験する（就職ガイダンス）」、「考える（MORIPAマイステップの構築と運用）」、「働きかける（インターンシップの支援）」という4つのカテゴリに分けてカリキュラムを編成し、情報を届けるという枠組を学生からのみではなく、教職員から見ても分かりやすい構成にした。

現在、医療職全体の有効求人倍率は2倍を超えているが、医療職種内で求人率に差がある。看護職は3倍、リハビリテーションの職種は4倍を超える高い水準となっているが、医療技術職の有効求人倍率は1.5倍を下回る現状である。2025年度の就職、進学を含む進路決定率（3月現在）は92%（昨年度93%）と昨年と同等であった。就職支援の強化を行った医療技術部の進路決定率（3月現在）は89%であり、西日本トップクラスの就職率となった。

※集計方法は、文部科学省のルールに準ずる。

【入試運営センター】

入試運営センターは、各入試方式・日程を正確かつ公平に運営を行うことを目的とし、社会環境の変化に対応した入試制度の検討や、より正確かつ公平な入試を運営できる体制を構築する取り組みを教職協働で行っている。

2025年は、舞洲で大阪・関西万博が開催され、その影響を避けるため総合型選抜の入試日程を1週間後倒し、万博閉幕後に実施することで受験生への影響を回避する対策や、2025年度開設の鍼灸学科アスレティックトレーナーコースへの対応などを行った。

また、増加する志望者への対策や入試問題作問のため入試方式による受験生の動向の把握や、遠方の受験者が受験しやすい環境を維持するため岡山県と広島県で実施した遠隔地入試の実績の確認を行うなど、各入試制度の効果測定のためデータ分析を行った。

【入学広報センター】

入学広報センターは、学生募集に係る企画立案および実施運営を担う教職協働の組織として、全学的な連携のもと戦略的な広報活動を推進した。2025年度においては、学部オープンキャンパス、大学院および専攻科説明会をはじめとする各種イベントを実施し、プログラム内容を創意工夫することで、受験生および保護者の理解促進と志願意欲の向上を図った。また、高大連携の取り組みとして、高校単位での出張講義や本学実習施設を活用した職業体験プログラムを実施し、医療職に対する理解の深化を図るとともに、本学への関心喚起および進学意識の醸成につなげた。さらに、高校教員と本学教員による情報交換会を開催し、教育および進路指導に関する相互理解を深めることで、高校との継続的な関係強化を実現した。そのほか、入学広報センター会議を毎月1回開催し、学生募集に関する方針および課題認識の共有を徹底するとともに、募集広報活動や入試に関する状況把握、データ分析等を通じて施策の改善を継続的に行い、組織全体として一体感のある募集活動の推進に努めた。

【教職支援センター】

本センターは、本学の教職課程の質的向上を目指すとともに、教員免許状取得及び教職への就業等教職を志望する学生の支援を目的としている。医療専門職と教員免許状取得を両立させる環境を学生に提供するため、2025年度は次の取組を行った。

「各種ガイダンスの実施」

- ・教育実習内諾に関するガイダンス
- ・教育実習、介護等体験に関するガイダンス
- ・教員免許一括申請に関するガイダンス

「教員採用試験対策」

- ・専任教員による一般教養・教職教養対策講座の実施
- ・教員採用試験受験者へのサポート並びに受験指導
- ・卒業生に対してのサポート（筆記・面接・模擬授業・実技対策）
- ・教員採用試験対策に関する図書の貸出し学校現場・子ども交流体験の実施
- ・学校ボランティア（中学校に2名、小学校に3名が参加）
- ・発達障害児童生徒との交流会（体育館で実施 児童生徒参加者のべ65名）
- ・学生サポートのべ27名
- ・学習面や進路等について学生との面談・相談を実施教職事務の集約化:
- ・教育実習、介護等体験に関する業務
- ・教員免許申請に関する業務
- ・教職課程科目及び成績管理に関する業務
- ・教員採用試験、教員採用に関する業務

■令和7年度（2025年度）教職免許状取得実績

- ・教職免許状取得者数[教科：保健体育] 14名
- ・教職免許状取得者数[教科：養護教諭] 5名

■令和7年度（2025年度）教員採用試験合格者実績（卒業生含む）

- ・教員採用試験合格者数：4名（1名現役合格 3名卒業生）

【卒後教育センター】

医療専門職の養成校として、生涯学習の継続を支援することは重要な課題であるため2015年から卒後教育センターを開設し、卒業生の医療者としての育成に取り組んでいる。2025年度は森ノ宮医療大学学術大会を2025年10月26日（日）に大学祭と同日に開催した。卒業生、関連施設職員、在学生、教員、高校生を含めて、563名の参加者が日々の研究について議論を深めた。誰にとっても身近な問題となった認知症に対して、国・自治体のみならず、産業界やアカデミア、そして国民全体で、認知症と向き合うことが求められています。そこで2025年は大会テーマを、『多職種連携で拓く認知症ケアの未来』として開催した。多くの演題の中から以下の演題について表彰を行った。

■最優秀賞

石川 彩月さん（森ノ宮医療大学 医療技術学部 臨床検査学科）

「国内で実施可能かつ簡便なアニサキス培養法の開発」

■優秀賞

宇陀 日向さん（社会医療法人 協和会 加納総合病院 リハビリテーション科）

「歩行中の膝関節負荷と内側半月逸脱との関連性 ～慣性センサーを用いた膝外部内転モーメント1st peakとの関連の検討～」

吉岡 紗希さん（社会医療法人 有隣会 東大阪病院 リハビリテーション部）

「内側半月逸脱に関与する因子の検討-関節包の力学特性の影響-」

■校友会奨励賞

桑口 華さん（森ノ宮医療大学 医療技術学部 診療放射線学科）

「CT装置の違いが低コントラスト分解能および形状再現性に与える影響」

■ポスター賞

木谷 駿斗さん（森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 理学療法学科）

「認知症患者とコミュニケーションスキルの実際について」

西村 雄志さん（森ノ宮医療大学 医療技術学部 臨床検査学科）

「貧血及び鉄欠乏性貧血に対する関心、行動に関する実態調査」

藤澤 愛海さん（森ノ宮医療大学 医療技術学部 臨床工学科）

「プログラミング言語 Julia を用いた心臓電気現象シミュレーションプログラムの開発」

西岡 優衣さん（森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 理学療法学科）

「幼児期の運動発達の特徴および関連因子」

東 直希さん（森ノ宮医療大学 医療技術学部 診療放射線学科）

「AIソフトウェアを用いた低線量CTの模擬結節検出感度および直径測定精度の検証」

また、BP（職業実践力育成プログラム）として卒業生をはじめ、実習施設、および地域の医療従事者を対象に以下の卒後教育プログラムを実施した。

- ・運動器理学療法アップデート講座
- ・臨床工学周術期管理アップデート講座
- ・呼吸ケア・リハビリテーションテクニカルコース

以上のプログラム修了者から、大学院修士課程に進学した者もあり、学部卒業から大学院までのシームレスな卒後教育を展開した。

【地域連携センター】

地域連携センターは、本学における教育研究活動と地域社会を繋ぐことにより、本学の社会貢献活動を総合的かつ組織的に遂行することを目的として設置された教職協働の組織である。2025年度は、2024年度に引き続き各教員の社会貢献活動を大学としての取り組みとして集約し、校内での情報共有と外部発信をさらに強化することで、学外のみならず校内での地域社会貢献活動への理解度向上と活性化に努めた。また、本学独自の取り組みとして地域連携センターが行っている南港太陽の町地域にお住まいの高齢者の方を対象とした講座「もりもり健康長寿サロン」については、2024年度より毎月開催としたが、2025年度はさらに継続しての参加を促すべくスタンプカードを導入する等、工夫を凝らしながら、地域の高齢者の方にとってのコミュニケーションの場として根付くよう努めている。また、その他の主な地域連携・社会貢献事業については下表のとおりである。

連携機関と協力した取り組み

事業名	実施日	内容
2025年度第1回 市民公開講座 糖尿病の”いろは”から 最新治療まで	2025年4月24日	基調講演： 地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター 糖尿病内分泌内科 主任部長 畑崎聖弘 講演Ⅰ：八幡久美子（看護学科 講師） 講演Ⅱ：角田晃啓（理学療法学科 教授） 講演Ⅲ：小宮山恭弘（臨床検査学科 教授）
2025年度第2回 市民公開講座 大切な人を守るため に、いま知っておきたい脳卒中	2025年11月6日	基調講演： 地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター 脳神経内科 主任部長 坂口 学 講演Ⅰ：船橋正夫（診療放射線学科 教授） 講演Ⅱ：南都智紀（言語聴覚学科 准教授）
救急フェア IN 京橋駅前	2025年11月15日	JR西日本京橋統括駅と連携し、いのちを守るための一次救命処置の普及活動「普通救命講習」および、一般の方を対象とした一次救命処置体験会「救急フェア IN 京橋駅前」の開催

地域の高齢者支援

事業名	実施日	内容
もりもり健康長寿サロン	2025年4月26日、5月24日、6月28日、7月26日、9月27日、10月25日、11月8日、12月13日、2026年1月24日、2月28日、3月28日	学生が主体となり、南港太陽の町地域の高齢者の方を対象に本学オリジナル体操や簡単な脳トレ、健康豆知識の提供を行う講座を運営
ほほえみクラブ	2025年4月15日、5月20日、6月17日、7月15日、8月19日、9月16日、10月21日、11月18日、12月16日、2026年1月20日、2月17日、3月17日	看護学科を中心として行う高齢者を対象とした介護予防教室

地域の子どもたちへのサポート

事業名	実施日	内容
咲洲こどもEXPO 出展	2025年 10月25・26日	・ファミリンピック～vs Family～ ・本のフリーマーケット
サッカークリニック	2025年	幼児～小学6年生までを対象とし

セレッソ大阪スポーツクラブ ×森ノ宮医療大学	6月7日、11月29日	たサッカースクールを開催
図書館の夏休み開放	2025年 8月1～8日、 18～22日	本学近隣にお住まいの方を対象に 図書館を開放
こどものおしごと体験イベント「みらいのたからばこ 2025 in大阪」	2025年 11月29・30日	・身体の不思議体験ブース ・非常食について考えようブース

大阪・関西万博に向けた取り組み

事業名	実施日	内容
大阪ヘルスケアパビリオン リボーンチャレンジ みんなで考える未来の街プロジェクト 出展	2025年 6月17～23日	企業と共同で進めるヘルスケア事業「WalkCare」を出展
大阪・関西万博 TEAM EXPOパビリオンステージ発表・展示	2025年6月29日	5大学連携プロジェクト（関西大学・京都光華女子大学・甲南女子大学・武庫川女子大学・森ノ宮医療大学）の学生によるTEAM EXPO2025プログラムの成果発表
大阪ヘルスケアパビリオン リボーンステージ 特別出展	2025年8月20日	健康長寿を歩む！森ノ宮医療大学“発” WalkCare 研究の最前線
アフター万博 なんばウォーク MINI EXPO	2025年11月15日、 16日	大阪ヘルスケアパビリオンで出展した「WalkCare」を体験できるブースを出展

その他 社会貢献活動

事業名	実施日	内容
無印良品グランフロント大阪 Mori'sからだコンパス (健康相談ブース出展)	2025年8月6日	身近なからだの不調に効くツボ無料相談・体験会 堀川奈央（鍼灸学科 講師）
	2025年9月24日	お口の健康と美容、口から始まる豊かな生活 鮎澤俊平（言語聴覚学科 講師）
	2025年12月8日	ご本人もご家族も一緒に！5分でできるフレイルチェック 門野杏子（看護学科 助教） 丸山加寿子（看護学科 講師）
	2026年2月23日	頸部エコーで、血管をチェックし

		よう！ 小宮山恭弘（臨床検査学科 教授）
2025年度第1回 附属鍼灸臨床センター 公開講座 肩こり・頭痛に効果あり！ ～家庭でできるツボ療法&セルフケア～	2025年9月25日	講師：鍋田智之（鍼灸臨床センター長）
2025年度第2回 附属鍼灸臨床センター 公開講座 東西医学からみる腰痛	2026年2月26日	講師：大川祐世（鍼灸学科 講師）
UR都市機構協働イベント 健康チェック測定会	2026年 2月18日・3月11日	南港ひかりの団地にお住まいの方 を対象とした健康チェック測定会 の開催

【共通教育センター】

共通教育センターは、全学横断的・基盤的な教育推進組織として、社会人が備えるべき倫理観・責任感を醸成すること、さらに将来、医療従事者として社会に貢献するための基盤を形成することを目的としている。2025年度もこれまでの活動を継続し、学修支援センターと協力してリメディアル教育（ステップアップ講座）や国家試験対策の実施、国際交流センター事業である「森ノ宮医療大学英語教育プログラム（MEEP）」のTOEIC対策における集中講座の実施を行った。さらに、SPI対策講座、医療技術学部が実施する心臓ベシックゼミ、教員対象の統計ソフト活用講座などの実施に協力した。2025年度もセンター会議を実施し、教務課と情報共有して学生の教育環境の維持・増強を目指して教養科目、専門基礎科目の科目担当者、配当時期などの検討を実施し、共通教育カリキュラムの適正さの検証と評価、改善に努めている。

【鍼灸情報センター】

鍼灸情報センターは、鍼灸に関する学術情報を収集し、WebおよびSNSで社会に向けて発信する活動を行ってきた。戦略的には鍼灸業界における本学のステータスの維持、本学鍼灸学科に対する情報提供と学会等外部業務の担当、および保護者や進路担当高校教員の認知度と信頼度の向上という、鍼灸学科のロジスティクス的な役割を担っている。

2025年度中にFacebookのフォロワーが約100人増加して1510人前後となり、X（旧Twitter）のフォロワーは30人あまり増加して865人となった。当センター員3名で執筆した鍼灸の推奨度が掲載されている国内の診療ガイドラインに関する解説論文（全日本鍼灸学会誌75巻2号）は、鍼灸業界以外の雑誌（家庭画報2月号ほか）、Webサイト、SNSなどで引用され、本学鍼灸学科のより広い認知に貢献した。また、日本の2大鍼灸学術賞のひとつである代田賞の実質的な事務局機能を出版部と共に担った。

【国際交流センター】

国際交流センターは、グローバル化が進展する現代において、学生の国際的視野の涵養と学修

の深化を目的とした教職協働組織である。国際交流センターの主な活動であるMEEP（Morinomiya English Education Program）では、正課授業の英語科目に加え、海外研修の実施、オンライン英会話の提供、TOEIC講座の実施、TOEIC IPテストを学内で年2回（9月と3月）実施している。

TOEICスコアに関して、今年度は800点台の学生が2名、600点台の学生が5名を数え、さらに900点を超えた学生が初めて輩出されるなど、顕著な成果が得られた。TOEICスコアは海外研修の補助金支給条件になっており、多くの学生が高い意欲をもって学習に取り組んでいる。例年同様に、今年度もTOEIC講座全40回（前期・後期各10回、前期・後期集中講座各10回）およびオンライン英会話（前期・後期）を開講し、多くの学生が参加した。

2025年度の海外研修はカナダのマキユワン大学でおこなった。参加学生は29名と過去最多を記録した。例年同様、英会話の授業や病院・学科見学を行ったほか、今年度は同大学で開講されている医療系授業に現地学生とともに参加する機会を得るなど、より実践的な学びの機会を実現した。なお、毎晩現地の学生によるレジデンスでのアクティビティも実施され、交流の深化が図られた。総じて、非常に充実度の高い研修であった。

以上の取り組みを通じ、学生の英語学習および海外志向は着実に高まりつつある。とりわけ海外研修に対する手厚い補助制度は他に類を見ないものであり、本学の志望動機の一つとなっている。また、補助金獲得のため英語学習に主体的に取り組む学生の増加も顕著である。これらはMEEPを含む国際交流センターの活動が、学生の英語力向上および国際意識の醸成に寄与していることを示すものである。

【校友センター】

校友センターは2022年度4月に新設され、森ノ宮医療学園校友会大学部会の事業計画・運営、予算管理、新規事業立案、校友会本部との連携に関する業務等を業務分掌規程としている。

2025年度も前年度から継続して卒業生との関係性構築を目的とした事業の企画・運営を行った。具体的には、2025年8月の作業療法部会主催研修会、2025年10月の森ノ宮医療大学学術大会の後援、診療放射線部会主催研修会、ホームカミングデー2025主催、2026年2月の診療放射線部会後援最終講義（奥村雅彦先生）、理学療法部会主催研修会（兼「3学会合同呼吸療法認定士」認定講習会）、2026年3月の鍼灸部会後援最終講義（尾崎朋文先生）、臨床工学部会後援退官記念懇親会（中沢一雄先生）、卒業生表彰および卒業記念品の贈呈、謝恩会の支援、附属図書館への文庫費寄付、附属鍼灸臨床センターの治療費補助、大阪ベイクリニックの拡張工事、学園施設の補助、校友会館の管理などに貢献した。校友会本部との協働も円滑に進んでいる。

ホームカミングデー2025は187名の卒業生・関係者が参加され、昨年度を上回る成果をあげた。広報ツールのLINE公式アカウントは登録者数が949名まで増加し、順調に規模を拡大している。今後さらに多くの卒業生との関係を築くことができるように広報活動も展開し、西日本最大の組織率を誇る卒業生ネットワーク構築を目指す。

【IPEセンター】

IPE関連科目の質向上と評価・点検を教職協働で行うための組織として活動を行っている。5つのIPEカリキュラムを、学年ごとに「MBS（Morinomiya Basic Seminar）」、「チーム医療見学実習」、「医療コミュニケーション」、「チーム医療論」、「IPW論（InterProfessional Work）」と段階を追って授業を展開することで、「チーム医療」の理解から実践までを学修することが可

能となった。また、初年次から全学科混成チームを形成し、5つのIPEカリキュラムを更に有機的につなげることで、IPE教育をより深化させた。2025年度からは、チーム医療の実践施設として新たにシミュレーションセンター(T-MIC)を開設した。シミュレーション教育だからこそできる「トライ&エラー」を繰り返しながら、様々な医療分野の基礎知識や医療技術を学び、医療現場で求められる実践能力を培う教育を実現した。また、オープンキャンパスなどで高校生やその家族に、普段触れることが少ない医療現場をリアルに体験できる機会を提供し、受験生確保にも貢献した。

【ダイバーシティセンター】

障がいのある学生に対する対応（合理的配慮）、ジェンダー・セクシャリティに由来する困難を抱える学生への支援、多様なルーツを持つ学生への配慮などを目的として、2024年度から設置された。本学の各組織、特に各学科、学生支援課、健康管理センター、教務課などと連携協力して、学生がキャンパスライフを送るうえで上記のような事情で困難に陥っている際に相談するセンターとして機能している。

2025年度は「障がい等のある学生への支援に関する規程」が制定され、これにより当センターの位置付け、役割、活動の内容等が明確にされた。また、合理的配慮の対応フローを再検討し、修正を行った。会議を毎月開催し、新たに申請のあった学生について合理的配慮の検討、すでに合理的配慮が適用されている学生のモニタリング結果の検討、試験受験時の配慮、バリアフリーその他について協議と情報共有を行った。

【附属図書館】

「情報資源（蔵書や雑誌、データベースなど）の確保」

・各学科ならびに学生からのリクエストをもとに、新たに2,142冊の新規図書を購入し、蔵書数は約7万7千冊（2026.3月末）となった。またデータベースについてもProQuest Health & Medical Collectionをはじめ6件と契約し、電子ジャーナルも33件と契約した。

「図書館運営の充実化による利用者満足度の向上」

・図書館システム（開館案内や新刊資料の掲示、データベースへのリンクなど）を積極的に活用し、利用者の満足度向上を図ったが、万博開催による授業時間の変更などもあり、利用者数は47,051名（前年度48,936名）とやや減少した。

「ガイダンスやイベント、夏休み開放などの開催」

- ・学部生や大学院生に対し、文献検索に関するガイダンスを実施した（計352名）。
- ・各学科の記念日の医療知識に関連する図書の紹介や、学修支援センターや広報課とのコラボの国家試験対策イベントを実施した（1384名参加）。
- ・ProQuestの利用に関する研修会を動画配信（8～12月）にて実施した。
- ・学外利用について、夏休み期間（8/1～8/22）に近隣の方を対象に図書館を開放し、34名が来館した。また大学祭で学生主催の本のフリーマーケットなどでも多数の来館者（680名）があった。

【医療管理部】

医療管理部では学内の医療に関連する様々な業務等に関し、関係各所と連携し以下の通り実施した。

・学生の健康管理等に関連する業務について、健康管理センターと連携して健康に関する学生への支援事業等を実施した（詳細は健康管理センターの項を参照ください）。

- ・大学附属診療所（大阪ベイクリニック）の管理運営に関する業務を実施した（詳細は森ノ宮医療大学附属大阪ベイクリニックの項を参照ください）。
- ・森ノ宮医療大学大学附属鍼灸臨床センターの管理運営に関する業務を実施した（詳細は鍼灸臨床センターの項を参照ください）。

【総務部：総務課】

総務課では、法人本部学園総務室と連携し、新年度オリエンテーション、チームビルディングをテーマとした大学全体SD研修などの大学におけるFSD研修を行うとともに、学校法人常翔学園との合同研修を実施するなど人材育成に注力する一方、各学科、各部署などで実施するFD研修やSD研修の情報集約ルールを整備し、部署別研修の体系化を図った。

また、2024年度に引き続き、「大学マスコットキャラクター」である「もりのん」「めでいぐろう」を学内外に浸透させるため、キャラクターグッズの開発などを行い、大学のブランド化を推進した。

その他入学式や卒業式などの式典運営、物品発注管理業務など通常業務、2027年度機関別認証評価受審に向けた準備なども滞りなく行い、法人本部と連携して推進した勤怠管理システムのリプレイス、申請書の電子化などの新規事業に取り組むとともに、コスト削減を推し進めた。

【総務部：施設マネジメント課】

施設マネジメント課では、経費の削減、業務効率化を目指し、内線スマホの導入など事務室の一部フリーアドレス化、紙媒体申請書の電子化、空調入替による省エネルギー化推進を行った。特に空調入替については補助金を申請、採択された事業となった。

また2024年度に引き続き、セレッソ大阪、オリックスバファローズ、レッドハリケーンズ大阪などのプロスポーツ団体との連携を強化し、学生に向けてプロスポーツ団体の施設見学を実施したほか、地域の小学生以下の子ども達を対象にサッカースクールを実施した。またグリーンスクエアを地域住民の方に開放するなど地域貢献活動にも尽力した。他にも文化的見地から京都国立博物館、奈良国立博物館のキャンパスメンバーズに加入し、学生および教職員への福利厚生に寄与した。

その他安否確認テストメールの配信、防災体験セミナーや自衛消防訓練の実施など危機管理の意識向上を図った。

【総務部：情報システム課】

情報システム課では、2020年度以降、WEB活用推進プロジェクト「green innovation」を継続的に推進しており、引き続きホームページおよび学生用WEBシステム上で、情報設備、MORIパス、学生サービス案内などの情報発信を行った。

また、学生サービスの向上、および ICT・ネットワーク基盤の強化を目的に、高速かつ大容量に対応した大規模ネットワーク整備事業を実施し、Wi-Fi 環境（高速無線LAN）の整備や通信品質の安定化に向けた各種環境改善を進めることで、学内ネットワークの利便性と安定性の向上を図った。

事務局では、業務効率の向上を目的としてペーパーレス化推進、およびフリーアドレス化の検討を進めており、その取り組みの一環として、事務職員の業務用端末をノートパソコンへ入れ替えた。

【総務部：会計課】

会計課では、学費関連の対応として、口座振替と銀行振込以外の納付方法の情報収集や、休学者や復学者への変更した学費納入スケジュールへの対応を行った。また、学生支援課と連携し、複雑化する国の修学支援新制度において、多子世帯向け第Ⅳ区分への対応や、2025年度の制度改定による第Ⅰ区分から第Ⅳ区分の多子世帯への区分改正対応などを行った。

また、財務会計室と業務連携を深め、会計専門職としての人材育成に努めるとともに、予算執行状況の実績把握、その他紙書類の電子化に向けての情報収集などを行った。

研究支援業務については研究支援センターと連携し、教員の研究促進、研究支援、科学研究費の採択に向けた取り組み、適正な科学研究費・個人研究費等の管理などに注力した。

【教学支援部：教務課】

2026年度の看護学部看護学科、総合リハビリテーション学部理学療法学科および作業療法学科の教育課程変更に向けて学科と連携し設置作業および申請準備作業を行った。併せて3学科における設置計画履行状況等調査資料の作成等にも対応した。

また、文部科学省の指針に基づき、教学マネジメント体制の確立のため教学マネジメント委員会を設置した。

各期における追再試験では、申込手続き時に申込学生の確認作業を行うよう改善し、これにより追再試験実施以前に受験学生を確定することができた。

公開授業については前年に引き続き動画による公開を実施したが、授業の雰囲気や学生の様子が分かりにくいとの声があったことから、学生や教室の様子を複数の動画に収め公開した。その結果、教職員から好評を得ることができた。

【教学支援部：学生支援課】

奨学金対応においては、昨年度に引き続き、本学の独自奨学金においては継続して給付し、学生の修学を支援した。2025年4月から修学支援新制度における多子世帯支援が本格実施したが、入念な準備作業が奏功したため、大きな混乱もなく対応することができている。

一方、学生会活動の支援では、従来と同様に学生会と連携しイベント（リーダーズ研修・フレッシュマン研修・大学祭・体育大会・勉強会）を実施した。新入生歓迎会においては多くの新入生が参加し、また、大学祭においては昨年に続いて2日間開催としたが、天候不順にも関わらず昨年以上の盛り上がりを見せ、2日間開催の定着を思わせる成果となった。

さらに、課外活動では新入生オリエンテーション期間中に部活動紹介、個別相談会を開催するなど積極的に課外活動を宣伝した。また、新たにダンスサークルが公認団体となり、課外活動の選択肢が増えることとなった。

そのほか、障がいのある学生支援において、ダイバーシティセンター規程を制定し、昨年からは本格的に始まった合理的配慮に基づく学生支援の根拠規程とした。支援のノウハウも蓄積することができ、合理的配慮に至るまでのフローも確立することができるなど、一定の発展を見ることのできた一年となった。

【教学支援部：入試課】

入試課では、入試運営センターと連携し、各入試方式・日程を正確かつ公平に運営するため、教職員協働で入試運営に取り組んだ。

入試運営においては、2025年は舞洲で大阪・関西万博が開催され、その影響を避けるため総合型選抜の入試日程を1週間後倒し、万博閉幕後に実施することで受験生への影響を回避する対策を行った。また、前年度より実施している岡山県と広島県での遠隔地入試を継続し、遠方の受験者が受験しやすい環境を維持した。

出願処理においては、2024年度にリニューアルしたWEB出願システムをより活用するため、出願処理の運用方法やシステムの改修を行い、入試業務の正確性を向上させるとともに、効率化を図った。入試問題の作問においては、学内教員や外部校正者による事前校正や入試実施後の事後点検を行うことにより、問題不備の発生防止に努めた。

【教学支援部：キャリア支援課】

新規事業としては、一部学科においてメンターシッププログラムを開始し、在学生在が卒業生から直接助言を得る機会を設けた。また、診療放射線学科3年生を対象にファーストステップガイダンスを実施し、本学の就職実績や関西圏内外の求人件数を踏まえ、今後の就職活動に向けた視点を共有した。継続事業としては、就職実績のある病院や実習病院（法人26件・病院70件）の人事採用部門およびコ・メディカル部門の技師長を訪問し、採用傾向等のヒアリングを行い学生の受験対策に役立てた。また、全国の手企業（10社）を招聘し、「医療技術学部 一般企業研究セミナー」を開催した（参加者：3年生77名）。医療機器メーカー等への就職者は14名となり、昨年度より減少したものの、シーメンスヘルスケア株式会社やテルモ株式会社への就職者を初めて輩出するなど、就職先の拡充が見られた。さらに、継続事業として、臨床工学科3年生（49名）を対象に個別キャリア面談を実施し、学生の早期選択・早期活動を支援した。加えて、SPI対策講座（全10回）および小論文対策講座（全6回）を対面・オンデマンド併用で実施し、学生が自身のタイミングで学修できる体制を整えた。

■学科別進路決定状況（2026年3月末時点）

- ・看護学科： 87名／88名（98.9%）
- ・理学療法学科： 70名／76名（92.1%）
- ・作業療法学科： 43名／46名（93.5%）
- ・臨床検査学科： 68名／77名（88.3%）
- ・臨床工学科： 56名／68名（82.4%）
- ・診療放射線学科： 66名／83名（79.5%）
- ・鍼灸学科： 52名／60名（86.7%）
- ・助産学専攻科： 8名／8名（100%）

合計：450名／506名（88.9%）

※2025年度卒業生（9月末・3月末卒業生を含む）の進路決定状況

※文部科学省の規定に準じ、講師登録者は進路決定者に含まない

進路未決定者（56名）には、国家試験未受験者および不合格者（27名）、3月末卒業者（21名）、講師登録者（4名）が含まれる。このうち、進路決定者（7名）および進学決定者（1名）を除くと、最終的な進路未決定者は44名である。進路未決定者のうち国家試験合格後に求職中の者は11名であり、昨年度の17名をやや下回った。特に診療放射線学科においては、各種医療機関との関係構築を進める中で、進路未決定者は昨年度の10名から2名へと減少した。

※3月末時点求職者内訳：作業療法1名、臨床検査3名、臨床工学4名、診療放射線2名、鍼灸1名（計11名）

【学長室：企画課】

「地域連携センターと連携した地域連携・社会貢献活動の推進」においては、2025年度は、淀川キリスト教病院、医療法人渡辺医学会、大阪けいさつ病院と相互連携協定を締結し、ともに地域課題の解決に取り組み、地域活性化に貢献していくことを確認した。また、大阪・関西万博においては、大阪ヘルスケアパビリオンにて特別出展を行い、さらに5大学連携プロジェクト（関西大学・京都光華女子大学・甲南女子大学・武庫川女子大学・本学）により、学生が発表を行った。その他、地域連携センターと連携し、社会連携活動として、P28～30・56・57表の取り組みを行った。「大学広報」においては、学長室広報課と連携して大学の認知度・ブランド力向上に向けた取り組みを行った。具体的には、公式Webサイトの運営管理や新着情報等の発信、プレスリリース配信、WEBメディア「セラピア」配信、広報誌「Beyond」の制作等を行った。また、「文部科学省等への申請対応」においては、学則変更等に伴い生じる文部科学省への申請業務（設置計画履行状況等調査やカリキュラム変更等）を行った。さらに「教育の質向上等を目的としたIR活動」においては、IR業務担当部署として、3つのポリシーを踏まえた大学の取り組みの適切性に係る点検・評価にあたり、IR機能を整備して収集・分析した情報を活用できるよう取り組んだ。また、教学マネジメント委員会の構成員として、教学マネジメントにおける教学IRを担い、PDCAサイクルの確立を行った。

【学長室：広報課】

広報課では、学生募集に関わる高校生・受験生・保護者・高校および塾・予備校関係者などの各ステークホルダーに対し、医療系総合大学としての強みを生かした情報発信を強化し、本学の認知度向上および医療分野への理解・関心の醸成に努めた。2025年度は、従来の「チーム医療教育」の訴求に加え、新設したシミュレーションセンター「T-MIC」を重点的に発信し、各種制作物やWEBサイトで特集掲載を実施したほか、オープンキャンパス、放課後大学見学会、高校教員向け説明会等を通じて、見学・体験の機会を提供した。また、第3期中期計画「西日本トップ!」の実現に向け、西日本各地の受験生から選ばれる大学となるための広報施策を推進した。対面型イベントについては、オープンキャンパスに加え、平日見学会（放課後大学見学会）や入試対策講座、医療の仕事体験フェスティバル等を開催し、年間延べ参加者数は7,500人を超えた。WEB施策では、動画コンテンツの拡充、SNS運用、SEO対策、WEB広告を強化し、アクセス数の向上を図った。さらに、オウンドメディア「セラピア」において高校生への認知度向上を強化したほか、発行物の制作や高校訪問、進学相談会等を通じ、継続的な情報発信に取り組んだ。

（2）各種データ編

① 在学生数・定員充足率等の推移

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
看護学科	1年生	91	90	92	93
	2年生	90	91	88	92
	3年生	87	85	86	85
	4年生	90	91	91	93
	計	358	357	357	363
定員		360	360	360	360
定員充足率		99.4%	99.2%	99.2%	100.8%

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
理学療法 学科	1年生	70	70	70	70
	2年生	67	70	70	70
	3年生	67	66	69	70
	4年生	76	70	75	81
	計	280	276	284	291
定員		280	280	280	280
定員充足率		100.0%	98.6%	101.4%	103.9%

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
作業療法 学科	1年生	50	50	48	45
	2年生	44	48	49	46
	3年生	47	43	47	46
	4年生	48	48	42	49
	計	189	189	186	186
定員		160	160	160	160
定員充足率		118.1%	118.1%	116.3%	116.3%

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
言語聴覚 学科	1年生			41	46
	2年生				40
	3年生				
	4年生				
	計			41	86
定員				40	80
定員充足率				102.5%	107.5%

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
臨床検査 学科	1年生	75	70	72	73
	2年生	71	74	70	70
	3年生	68	69	74	67
	4年生	68	72	82	90
	計	282	285	298	300
定員		270	280	280	280
定員充足率		104.4%	101.8%	106.4%	107.1%

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
臨床工学科	1年生	73	61	71	82
	2年生	68	70	59	70
	3年生	58	59	66	55
	4年生	69	66	60	81
	計	268	256	256	288
定員		240	240	240	240
定員充足率		111.7%	106.7%	106.7%	120.0%

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
	1年生	90	87	90	90

診療放射線 学科	2年生	89	87	87	88
	3年生	88	87	87	85
	4年生		87	99	99
	計	267	348	363	362
定員		240	320	320	320
定員充足率		111.3%	108.8%	113.4%	113.1%

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
鍼灸学科	1年生	70	64	73	74
	2年生	56	67	62	71
	3年生	64	54	65	59
	4年生	68	68	61	76
	計	258	253	261	280
定員		240	240	240	240
定員充足率		107.5%	105.4%	108.8%	116.7%

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
大学全体	1年生	519	492	557	573
	2年生	485	507	485	547
	3年生	479	463	494	467
	4年生	419	502	510	569
	計	1902	1964	2046	2156
定員		1790	1880	1920	1960
定員充足率		106.3%	104.7%	106.6%	110.0%

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
大学院 修士課程 (保健医療学専攻)	1 年生	4	9	6	4
	2 年生	10	6	9	6
	計	14	15	15	10
定員		12	12	12	12
定員充足率		116.7%	125.0%	125.0%	83.3%

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
大学院 博士前期課程 (看護学専攻)	1 年生	6	7	2	1
	2 年生	2	6	7	2
	計	8	13	9	3
定員		12	15	18	18
定員充足率		66.7%	86.7%	50.0%	16.7%

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
大学院 博士後期課程	1 年生	2	1	6	5
	2 年生	3	2	1	6

(医療科学専攻)	3 年生	1	3	1	1
	計	6	6	11	12
定員		6	6	6	6
定員充足率		100.0%	100.0%	183.3%	200.0%

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
大学院 博士後期課程 (看護学専攻)	1 年生	2	1	1	4
	2 年生		2	1	1
	3 年生			2	3
	計	2	3	4	8
定員		2	4	6	6
定員充足率		100.0%	75.0%	66.7%	133.3%

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
助産学専攻科	1 年生	10	9	8	8
	計	10	9	8	8
定員		10	10	10	10
定員充足率		100.0%	90.0%	80.0%	80.0%

② 2026年度 看護学部/総合リハビリテーション学部/医療技術学部 入学試験受験者数

看護学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	90	15	105	90	15	105	15	0	15
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 均等配点方式	231	20	251	225	20	245	41	0	41
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 高得点配点方式	231	0	231	225	0	225	42	0	42
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 均等配点方式	107	15	122	97	14	111	19	0	19
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 高得点配点方式	107	0	107	97	0	97	18	0	18
一般選抜前期 A日程 3科目型	122	13	135	121	13	134	18	0	18
一般選抜前期 A日程 2科目型	169	18	187	167	18	185	24	0	24
一般選抜前期 B日程 3科目型	90	9	99	86	9	95	14	0	14
一般選抜前期 B日程 2科目型	134	15	149	129	15	144	20	0	20
一般選抜前期 C日程 3科目型	83	10	93	80	10	90	12	0	12
一般選抜前期 C日程 2科目型	125	15	140	121	15	136	19	0	19
一般選抜 後期	51	4	55	50	4	54	25	0	25
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅰ期	59	5	64	59	5	64	9	0	9
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅱ期	3	0	3	3	0	3	0	0	0
社会人選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	19	0	19	19	0	19	19	0	19
計	1621	139	1760	1569	138	1707	293	0	293

理学療法学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	60	38	98	60	38	98	13	0	13
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 均等配点方式	100	55	155	97	51	148	30	0	30
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 高得点配点方式	100	0	100	97	0	97	31	0	31
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 均等配点方式	49	34	83	47	30	77	3	0	3
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 高得点配点方式	49	0	49	47	0	47	3	0	3
一般選抜前期 A日程 3科目型	42	32	74	42	31	73	9	0	9
一般選抜前期 A日程 2科目型	68	48	116	66	47	113	14	0	14
一般選抜前期 B日程 3科目型	33	26	59	33	25	58	8	0	8
一般選抜前期 B日程 2科目型	57	38	95	57	37	94	12	0	12
一般選抜前期 C日程 3科目型	34	25	59	33	24	57	8	0	8
一般選抜前期 C日程 2科目型	56	43	99	55	41	96	12	0	12
一般選抜 後期	20	16	36	20	15	35	1	0	1
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅰ期	15	19	34	15	19	34	6	0	6
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅱ期	1	0	1	1	0	1	0	0	0
社会人選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	16	0	16	16	0	16	16	0	16
計	700	374	1074	686	358	1044	166	0	166

作業療法学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	15	41	56	15	41	56	14	21	35
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 均等配点方式	10	51	61	10	51	61	10	11	21
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 高得点配点方式	10	0	10	10	0	10	10	0	10
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 均等配点方式	4	34	38	3	30	33	1	0	1
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 高得点配点方式	4	0	4	3	0	3	1	0	1
一般選抜前期 A日程 3科目型	6	23	29	5	23	28	1	0	1
一般選抜前期 A日程 2科目型	8	42	50	7	42	49	1	0	1
一般選抜前期 B日程 3科目型	5	20	25	4	20	24	1	0	1
一般選抜前期 B日程 2科目型	5	40	45	4	40	44	1	0	1
一般選抜前期 C日程 3科目型	4	18	22	2	17	19	1	0	1
一般選抜前期 C日程 2科目型	4	38	42	2	37	39	1	0	1
一般選抜 後期	2	17	19	2	17	19	1	0	1
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅰ期	4	16	20	4	16	20	1	0	1
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅱ期	1	1	2	1	1	2	0	0	0
社会人選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	8	0	8	8	0	8	8	0	8
計	90	341	431	80	335	415	52	32	84

言語聴覚学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	34	26	60	34	26	60	27	0	27
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 均等配点方式	21	36	57	21	36	57	7	0	7
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 高得点配点方式	21	0	21	21	0	21	7	0	7
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 均等配点方式	15	23	38	12	21	33	2	0	2
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 高得点配点方式	15	0	15	12	0	12	2	0	2
一般選抜前期 A日程 3科目型	7	10	17	7	10	17	1	0	1
一般選抜前期 A日程 2科目型	11	20	31	11	20	31	1	0	1
一般選抜前期 B日程 3科目型	6	5	11	6	5	11	1	0	1
一般選抜前期 B日程 2科目型	11	15	26	11	14	25	1	0	1
一般選抜前期 C日程 3科目型	4	7	11	4	6	10	1	0	1
一般選抜前期 C日程 2科目型	9	18	27	9	16	25	1	0	1
一般選抜 後期	3	6	9	3	6	9	1	2	3
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅰ期	7	4	11	7	4	11	1	0	1
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅱ期	0	1	1	0	1	1	0	0	0
社会人選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	10	0	10	10	0	10	10	0	10
計	174	171	345	168	165	333	63	2	65

臨床検査学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	55	47	102	54	47	101	25	0	25
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 均等配点方式	76	80	156	76	76	152	27	0	27
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 高得点配点方式	76	0	76	76	0	76	22	0	22
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 均等配点方式	40	50	90	35	47	82	10	0	10
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 高得点配点方式	40	0	40	35	0	35	11	0	11
一般選抜前期 A日程 3科目型	46	48	94	45	47	92	11	0	11
一般選抜前期 A日程 2科目型	56	67	123	54	65	119	12	0	12
一般選抜前期 B日程 3科目型	42	31	73	41	31	72	9	0	9
一般選抜前期 B日程 2科目型	53	50	103	51	50	101	11	0	11
一般選抜前期 C日程 3科目型	30	36	66	29	35	64	6	0	6
一般選抜前期 C日程 2科目型	42	57	99	39	56	95	9	0	9
一般選抜 後期	19	23	42	19	22	41	1	0	1
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅰ期	17	26	43	17	26	43	5	0	5
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅱ期	2	3	5	2	3	5	1	0	1
社会人選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	8	0	8	8	0	8	8	0	8
計	602	518	1120	581	505	1086	168	0	168

臨床工学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	36	52	88	36	52	88	35	10	45
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 均等配点方式	9	76	85	9	74	83	8	15	23
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 高得点配点方式	9	0	9	9	0	9	8	0	8
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 均等配点方式	4	48	52	4	45	49	2	8	10
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 高得点配点方式	4	0	4	4	0	4	2	0	2
一般選抜前期 A日程 3科目型	10	48	58	10	48	58	5	2	7
一般選抜前期 A日程 2科目型	14	64	78	14	62	76	6	1	7
一般選抜前期 B日程 3科目型	6	37	43	6	37	43	3	1	4
一般選抜前期 B日程 2科目型	10	53	63	10	52	62	4	0	4
一般選抜前期 C日程 3科目型	4	36	40	4	36	40	2	3	5
一般選抜前期 C日程 2科目型	9	53	62	9	52	61	3	1	4
一般選抜 後期	2	21	23	2	21	23	1	0	1
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅰ期	7	21	28	7	21	28	4	0	4
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅱ期	1	2	3	1	2	3	0	0	0
社会人選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	6	0	6	6	0	6	6	0	6
計	131	511	642	131	502	633	89	41	130

診療放射線学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	122	18	140	122	18	140	15	0	15
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 均等配点方式	170	34	204	164	34	198	29	0	29
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 高得点配点方式	170	0	170	164	0	164	30	0	30
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 均等配点方式	120	9	129	113	9	122	10	0	10
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 高得点配点方式	120	0	120	113	0	113	11	0	11
一般選抜前期 A日程 3科目型	102	23	125	101	22	123	20	0	20
一般選抜前期 A日程 2科目型	144	32	176	142	30	172	27	0	27
一般選抜前期 B日程 3科目型	76	21	97	76	20	96	15	0	15
一般選抜前期 B日程 2科目型	117	32	149	117	30	147	23	0	23
一般選抜前期 C日程 3科目型	78	14	92	77	14	91	14	0	14
一般選抜前期 C日程 2科目型	117	25	142	115	24	139	21	0	21
一般選抜 後期	47	5	52	46	5	51	5	0	5
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅰ期	44	10	54	44	10	54	10	0	10
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅱ期	3	2	5	3	2	5	0	0	0
社会人選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	9	0	9	9	0	9	9	0	9
計	1439	225	1664	1406	218	1624	239	0	239

鍼灸学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	36	33	69	36	33	69	30	0	30
総合型選抜 【スポーツ実績重視型】	15	0	15	15	0	15	14	0	14
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 均等配点方式	15	44	59	15	42	57	3	0	3
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 高得点配点方式	15	0	15	15	0	15	3	0	3
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 均等配点方式	12	22	34	12	20	32	1	0	1
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 高得点配点方式	12	0	12	12	0	12	1	0	1
一般選抜前期 A日程 3科目型	9	14	23	9	14	23	4	0	4
一般選抜前期 A日程 2科目型	10	25	35	10	24	34	4	0	4
一般選抜前期 B日程 3科目型	6	13	19	6	13	19	3	0	3
一般選抜前期 B日程 2科目型	9	22	31	9	22	31	4	0	4
一般選抜前期 C日程 3科目型	5	12	17	5	12	17	1	0	1
一般選抜前期 C日程 2科目型	7	21	28	7	21	28	1	0	1
一般選抜 後期	4	8	12	4	8	12	2	0	2
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅰ期	4	5	9	4	5	9	2	0	2
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅱ期	0	2	2	0	2	2	0	0	0
社会人選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	25	0	25	25	0	25	25	0	25
計	184	221	405	184	216	400	98	0	98

③ 2026年度 大学院入学試験受験者数

保健医療学専攻 【修士課程】	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第 1 次募集	6	6	5	5
第 2 次募集	3	3	3	3
第 3 次募集	2	2	2	2
計	11	11	10	10

看護学専攻 【博士前期課程】	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第 1 次募集	1	1	1	1
第 2 次募集	2	2	2	2
第 3 次募集	0	0	0	0
計	3	3	3	3
医療科学専攻 【博士後期課程】	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第 1 次募集	3	3	3	3
第 2 次募集	1	1	1	1
計	4	4	4	4

看護学専攻 【博士後期課程】	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第 1 次募集	2	2	2	2
第 2 次募集	1	1	1	1
計	3	3	3	3

④ 2026年度 助産学専攻科入学試験受験者数

助産学専攻科	志願者数	受験者数	合格者	入学者
学内推薦入試	4	4	4	4
一般入試	34	33	6	6
計	38	37	10	10

⑤ 国家試験合格率

■ 看護師 第115回

全体 受験者数：59,614人 合格者数：52,666人 合格率：88.3%

新卒 受験者数：54,036人 合格者数：50,862人 合格率：94.1%

本学新卒 受験者数： 88人 合格者数： 87人 合格率：98.9%

■ 保健師 第112回

全体 受験者数：7,467人 合格者数：6,502人 合格率：87.1%

新卒 受験者数：7,109人 合格者数：6,392人 合格率：89.9%

本学新卒 受験者数： 10人 合格者数： 10人 合格率：100%

■助産師 第109回

全体 受験者数：2,046人 合格者数：2,040人 合格率：99.7%
新卒 受験者数：2,018人 合格者数：2,014人 合格率：99.8%
本学新卒 受験者数：8人 合格者数：8人 合格率：100%

■理学療法士 第61回

全体 受験者数：12,436人 合格者数：11,156人 合格率：89.7%
新卒 受験者数：11,366人 合格者数：10,782人 合格率：94.9%
本学新卒 受験者数：71人 合格者数：71人 合格率：100%

■作業療法士 第61回

全体 受験者数：5,426人 合格者数：4,947人 合格率：91.2%
新卒 受験者数：4,801人 合格者数：4,636人 合格率：96.6%
本学新卒 受験者数：46人 合格者数：46人 合格率：100%

■臨床検査技師 第72回

全体 受験者数：4,693人 合格者数：3,976人 合格率：84.7%
新卒 受験者数：4,064人 合格者数：3,793人 合格率：93.3%
本学新卒 受験者数：73人 合格者数：70人 合格率：95.9%

■臨床工学技士 第39回

全体 受験者数：2,396人 合格者数：1,573人 合格率：65.7%
新卒 受験者数：掲載なし 合格者数：掲載なし 合格率：掲載なし
本学新卒 受験者数：63人 合格者数：54人 合格率：85.7%

■診療放射線技師 第78回

全体 受験者数：3,506人 合格者数：2,670人 合格率：76.2%
新卒 受験者数：3,084人 合格者数：2,585人 合格率：83.8%
本学新卒 受験者数：79人 合格者数：67人 合格率：84.8%

■はり師 第34回

全体 受験者数：3,920人 合格者数：2,634人 合格率：67.2%
新卒 受験者数：掲載なし 合格者数：掲載なし 合格率：掲載なし
本学新卒 受験者数：53人 合格者数：47人 合格率：88.7%

■きゅう師 第34回

全体 受験者数：3,858人 合格者数：2,720人 合格率：70.5%
新卒 受験者数：掲載なし 合格者数：掲載なし 合格率：掲載なし
本学新卒 受験者数：53人 合格者数：50人 合格率：94.3%

⑥ 職種別求人件数

職種別の本学への求人件数は、以下のとおりである。

職種	件数
看護師	764
保健師	176
助産師	104
理学療法士	1895
作業療法士	1833
臨床検査技師	548
臨床工学技士	399
診療放射線技師	424
はり・きゅう師	271
その他医療従事者	1393
福祉関係(介護職)	1322
教員	230
事務職	3879
営業職	5589
その他	10798
総計	23211

<有効求人倍率について>

学科別の求人倍率は、全国の大学卒業予定者向けの平均求人倍率を大きく上回る結果となった。

※参考数値2025年度大学卒業予定者の求人倍率全国平均1.66 倍（リクルートワークス社調べ）

	看護学科	理学療法 学科	作業療法 学科	臨床検査 学科	臨床工学科	診療放射 線学科	鍼灸学科
求人件数 (件)	886	1133	1086	377	275	301	244
求職者数 (人数)	87	70	44	71	60	68	56
求人倍率 (倍)	10.18	16.19	24.68	5.31	4.58	4.43	4.36

⑦ 学修支援センター主催事業

2025年度 ステップアップ講座 開催実績

	【VODコンテンツ】タイトル	学科
全9回	心電図検定対策興亜	検定講座受講者
全6回	後期心電図検定対策講座	検定講座受講者
—	3日おきに国家試験の過去問の配信	臨床検査
全8回	人体機能補助療法学	臨床工学

	【対面講座】日時	対象学科/担当	延参加者数
全3回	姿勢と動作のデータサイエンス体験会	理学/前田・檜垣	10名
全2回	肺機能検査について	理学/堀	22名
全1回	吹き戻しによる呼吸練習による効果	理学/堀	22名
全1回	ストレッチによる組織酸素動態の変化について	理学/堀	17名
全1回	アスリートを支える！足首捻挫のリハビリテーション戦略	理学/沼津	26名
全5回	スポーツ現場常同に向けたワークショップ	理学/沼津	194名
全3回	外部トレーナー育成ワークショップ	理学/沼津	24名
全1回	スポーツ現場のトレーニング（スクワット、ランジ）	理学/沼津	29名

全1回	バイオメカニクス研究から解明する腰痛のしくみ	理学/中田	40名
全1回	手術後の競技復帰のためのエコー評価	理学/工藤	45名
全1回	VRとAIによる理学療法	理学/河西	41名
全2回	足関節テーピング	理学/杉本	56名
全1回	小児体験ツール・血糖測定の紹介	理学/澤田・角田	21名
全1回	発達検査、身体組成測定	理学/澤田・角田	32名
全2回	解剖学 <上肢の骨学>	作業/朝倉	36名
全2回	解剖学 <上肢の筋学>	作業/朝倉	37名
全1回	神経系	言語/大根	4名
全2回	音響学	言語/南都・鮎沢	12名
全2回	聴覚障害学	言語/館	28名
全1回	言語発達学	言語/鮎澤	3名
全5回	解剖生理学講座	言語/朝倉	26名
全1回	特別補講 解剖生理学講座	言語/朝倉	5名
全1回	医療系の語彙力を上げる！かるたレクリエーション	検査/小林渉	51名
全1回	前期の復習課題の配布と解説	検査/関根	50名
全1回	人体機能補助療法学	工学/中村	38名
全1回	救命・集中治療・麻酔	工学/加納	15名
全3回	体外循環領域	工学/加納	116名
全1回	医学総論	工学/加納	38名
全3回	電気工学	工学/原	27名
全8回	安全管理学	工学/布江田	145名
全4回	医用生体工学	工学/稲田	110名
全6回	生体計測装置学	工学/井本	68名
全6回	呼吸・人工呼吸	工学/藤江	96名
全3回	機械・物性・材料	工学/稲田	58名
全5回	情報処理工学	工学/中沢	95名
全1回	計算問題（機械）	工学/川村	9名
全1回	計算問題（計測）	工学/川村	4名
全6回	解剖学講座	放射線/朝倉	38名

⑧ 研究業績

< 英文 >

理学療法学科

- ・ Kakuda A, Sawada Y, Okumura R, Anme T. Cohort profile: The Community Empowerment and Care for Well-being and Healthy Longevity study. J Epidemiol. 2026.
- ・ Sawada Y, Kakuda A, Anme T, et al. Factors associated with frailty progression in community-dwelling older adults: A cross-sectional observational study. Archives of Gerontology and Geriatrics Plus. 2026; 2(3): 100179.
- ・ Mikiya R, Momoki C, Sawada Y, Habu D. Association between eating alone and motor function among community-dwelling older adults during the COVID-19 pandemic: a cross-sectional study. BMC Geriatrics. 2025; 25(1): 883.
- ・ Fukushima K, Tsutsumi M, Nakata A, Kakimoto A, Yamaguchi I, Hoshino T, Matsuzaki S, Kudo S. Relationship between pelvic incidence and hip, pelvic, and lumbar motion during squatting in healthy individuals with high and low pelvic incidence. Scientific Reports. 2026 Jan 20; 16(1): 5831.

- Watanabe T, Kuroyanagi E, Furusawa H, Tsutsumi M, Numasawa S, Kudo S. Identifying factors associated with proprioceptive impairment in individuals after lateral ankle sprain: a cross-sectional study. *Physical Therapy in Sport*. 2025 Dec 28; 78: 101885.
- Tsutsumi M, Nimura A, Utsunomiya H, Ibara T, Kudo S, Akita K. Significance of fiber orientation in the interosseous sacroiliac ligament: An anatomical and histological study of the implications of its mechanical adaptation. *Journal of Anatomy*. 2025 Nov 14.
- Nakanishi S, Uemura N, Tsutsumi M, Kitagawa T, Miyashita T, Kudo S. Effect of knee flexion angle on infrapatellar fat pad hemoglobin during isometric quadriceps exercise. *Journal of Physical Therapy Science*. 2025 Nov; 37(11): 567-571.
- Ikezu M, Kudo S, Yoshioka K, Hirata M, Hayashi H. Pathological Classification of Lateral Elbow Tendinopathy Based on Fiber Orientation, Blood Flow Velocity of Radial Recurrent Artery, and Patient-Reported Outcome Measures. *Journal of Clinical Medicine*. 2025 Oct 2; 14(19): 6979.
- Ikezu M, Kudo S, Noda I, Kubo T, Hayashi H. Risk factors for elbow injuries in professional baseball players based on ultrasound images: a prospective cohort study of 56 players. *JSES International*. 2025 May 22; 9(5): 1820-1824.
- Kuroyanagi E, Watanabe T, Furusawa H, Tsutsumi M, Kudo S. Electromyographic examination of a new exercise therapy for the intrinsic and extrinsic foot muscles. *Journal of Physical Therapy Science*. 2025 Oct; 37(10): 530-536.
- Machida S, Tsutsumi M, Utsunomiya H, Ibara T, Kudo S. Characteristics of gait pelvic jerk in individuals with femoroacetabular impingement syndrome. *Journal of Experimental Orthopaedics*. 2025 July 24; 12(3): e70373.
- Okawa S, Noda I, Nariyama Y, Kitayama S, Inada T, Kudo S. Effect of extension on stiffness of the teres minor muscle following extracorporeal shock wave therapy for frozen shoulder: a double-blind, randomized, controlled trial. *Journal of Physical Therapy Science*. 2025 May; 37(5): 209-214.
- Watanabe T, Kuroyanagi E, Furusawa H, Tsutsumi M, Kudo S. A novel method of assessing proprioception in the foot-ankle joint complex after lateral ankle sprain. *Physical Therapy in Sport*. 2025 May; 73: 192-197.
- Miyashita T, Kawanishi K, Kudo S. Relationship Between Lower-Extremity Co-Contraction and Jerk During Gait. *Sensors (Basel)*. 2025 Apr 6; 25(7): 2327.
- Tsutsumi M, Nimura A, Utsunomiya H, Ikezu M, Iizuka Y, Kudo S, Akita K. Anatomic Study of Hip Pericapsular Muscle Arrangement on the Joint Capsule. *JB JS Open Access*. 2025 Mar 14; 10(1): e24.00153.

作業療法学科

- Nakai S, et al. Examination of discrepancies in anosognosia for spatial neglect across tasks and behaviors. *Cognitive and Behavioral Neurology*. 2025 Dec 1; 38(4): 184-189.
- Kagino S, et al. A study on brake-accelerator reaction times in elderly patients after artificial knee joint and hip joint replacement surgery. *Traffic Injury Prevention*. 2025; 6: 1-8.
- Urakawa M, Noguchi T, Ogawa Y. Impact of the “Sense of Ibasho” and Positive Occupation on Subjective Well-Being: Insights from Users of a Psychiatric Day Hospital in Japan. *Occupational Therapy in Mental Health*, 2025 Sep; 1–14.

言語聴覚学科

- Kameda H, Dong J, Yamamoto C, Konomi A, Nishikawa Y, Tomita T. Safety and effectiveness of ixekizumab in Japanese patients with ankylosing spondylitis and non-radiographic axial spondyloarthritis in real-world use: a post-marketing safety study. *Modern Rheumatology*. 2025 Nov 7; roaf108.

臨床検査学科

- Noda H, et al. Morphological Visualization of Thrombi During Catheter-Directed Fibrinolytic Therapy for Pulmonary Thromboembolism. *J Histochem Cytochem*. 2026; 74(1): 9-17.
- Sekine S, et al. Electroacupuncture at PC6-Induced Gut Microbiota Changes and Potential Suppression of

Nausea-Like Behavior: A Preliminary Study in Pregnant Mice. *Acupunct Electrother Res.* 2026; 10.1177/03601293261430926 (in press).

臨床工学科

- ・ Nakamura Y, Shimamoto Y, Tachibana K and Umimoto K. Evaluation of Water Loss During Extracorporeal Membrane Oxygenation. *Perfusion.* 2025 Nov 4; 2676591251395575. Online ahead of print. doi: 10.1177/02676591251395575.
- ・ Kano H, Hara Y, Watanabe K, Ogura S, Oka T, Okita Y. Optimal Transfusion Therapy Using a Hemostatic Analyzer in Aortic Surgery with Hypothermic Cardiopulmonary Bypass: A Cohort Study. *森ノ宮医療大学紀要.* 2026; 20: 1-12.

鍼灸学科

- ・ Okawa Y, Yamashita H. Effectiveness of Acupuncture for Katakori (Nonspecific Neck and Shoulder Stiffness/Tightness): A Systematic Review and Meta-Analysis. *Innovations in Acupuncture and Medicine.* 2026; 19.
- ・ Masuyama S, Yamashita H, Amino T, Kawamoto R, Tsuji R, Hiromoto Nakanishi, Hiroshi Yoshida. Acupuncture for patients with Cancer in a Japanese palliative care team: a prospective case series study. *Integr Med Res.* 2026; 15(1).

<和文>

看護学科

- ・ 木村清子, 師岡友紀, 日本語学校の教職員が認識する在日外国人留学生の受療行動における課題, *日本看護科学会誌,* 2025; 45: 39-48.
- ・ 水本英佑, 松岡小百合, 原明子. 看護基礎教育における1、2年生を対象としたフィジカルアセスメント教授方法の工夫についての文献検討. *森ノ宮医療大学紀要.* 2026; 20.
- ・ 武ユカリ, 三木明子, 三浦靖彦. 在宅医療・介護現場における患者及び家族からの暴力・ハラスメントに関する実態調査 第1報. *日本在宅医療連合学会誌.* 2026; 7(1): 7-14.
- ・ 松田智子, 中谷昌弘. 小学校教育と幼稚園教育の接続カリキュラムへの一考察—生活科、国語科、体育科に視点を当てて—. *大阪教育福祉専門学校紀要.* 2026; 11-20.

理学療法学科

- ・ 杉本圭, 村瀬忍, 寺田和憲. 機械学習による書字障害の識別に関する研究動向と課題: スコーピングレビュー. *AI時代の教育論文誌.* 2025; 7: 9-15.

作業療法学科

- ・ 阿部秀高, 橋本弘子. 自閉スペクトラム症(ASD)児の言語能力育成によるwell-being実現に関する研究 —「言葉視覚カード」を用いて. 子どものいのちと権利の教育学会誌. 2026; web掲載

言語聴覚学科

- ・ 中谷謙, 芝さやか, 館幸枝, 辰巳郁子, 田中裕. 文レベルの発話で非流暢性を呈した症例. *保健医療学雑誌,* 2025; 16(2): 60-67.

臨床検査学科

- ・ 関根将, 太田健介. 慢性的なトコジラミ刺症が一因と考えられた鉄欠乏性貧血の一例. *Clinical Parasitology.* 2025; 36(1): 54-57.

助産学専攻科

- ・ 阪田あみ他. 無痛分娩管理体制の実態と無痛分娩に関する教育に対する助産師の意識: 病院勤務と診療所勤

務の比較. 日本母性衛生学会誌. 2025; 66(6): 530-536.

保健医療学研究科

- ・浅野実希, 岩佐由美, 齋藤雅子. 熟練看護師の慢性心不全患者に対する緩和ケア実践. 日本NP学会誌. 2025; 9(2): 11-21

⑨ 競争的研究資金獲得状況（文部科学省科学研究費助成事業-科研費-）

<新規>

- ・基盤研究(C) 鮎澤 俊平「療育に携わる保育士に向けた構音のアセスメントツールの開発」
- ・基盤研究(C) 川畑 浩久「RA系による滑膜線維化メカニズムの解明:関節疾患と高血圧の分子相関メカニズム」
- ・基盤研究(C) 鍵野 将平「下肢人工関節置換術患者の運転再開支援プロトコルの構築」
- ・基盤研究(C) 八幡 久美子「看護系大学生のプロフェッショナルリズムの尺度開発および影響要因の探索」
- ・基盤研究(C) 戸田 淳氏「過疎地域のフレイル高齢者のためのデジタルヘルスを活用した認知症予防法の確立」
- ・基盤研究(C) 塚越 千尋「脊髄損傷の再生医療における運動介入の効果とその展開」
- ・基盤研究(C) 檜垣 奨「セルフストレッチの種類が立ち上がり直後の立位安定性および筋活動に及ぼす影響」
- ・基盤研究(C) 宮武 大貴「灸刺激は睡眠と運動パフォーマンスに影響を与えるのか？」
- ・基盤研究(C) 木内 隆裕「片側上肢運動の粗密と反対側上肢への運動プライミング」
- ・基盤研究(C) 今井 信也「脳腫瘍リスクを低減する次世代軽量放射線防護用フェイスシールドの開発」
- ・若手研究 野田 逸誓「尺骨神経の循環障害に着目した投球障害肘のリハビリテーションの開発」
- ・若手研究 川村 勇樹「人工透析中の血液チューブ振動を利用した脱血不良監視および非接触血圧推定手法の開発」
- ・研究活動スタート支援 末次 由佳「小児言語聴覚士のカウンセリングマインド実態調査—教育開発の基礎資料構築—」
- ・研究活動スタート支援 中井 俊輔「半側空間無視における病識の変容と生活課題への影響に関する縦断的变化の解明」
- ・ひらめき☆ときめきサイエンス 辻 義弘「じん臓すごいぜ！人工じん臓で学ぶじん臓の働きとろ過の仕組み」
- ・ひらめき☆ときめきサイエンス 森谷 正之「カラダのしくみ—おいしく「かんで飲みこむしくみ」をサイエンスしよう！」
- ・ひらめき☆ときめきサイエンス 森 誠司「がんとはどんな病気？がん細胞の形がおかしくなるのはなぜ？」
- ・奨励研究 渡邊 貴博「伸縮歪みセンサーを用いた慢性足関節不安定症に対する固有受容感覚測定法の確立」

<継続>

- ・基盤研究(B) 工藤 慎太郎「膝蓋下脂肪体の線維化と酸欠に着目した変形性膝関節症の進行を予防する運動療法の開発」
- ・基盤研究(C) 杉本 圭「機械学習を用いた発達性ディスグラフィアのスクリーニングに関する研究」
- ・基盤研究(C) 山下 仁「プラセボ効果の症状改善への関与に関する人々の認識と研究によるエビデンスのギャップ」
- ・基盤研究(C) 山口 功「肺がん対策型検診に低線量CTを導入するための画質基準標準化に向けた基礎的研究」
- ・基盤研究(C) 藤重 仁子「第二次世界大戦以降におけるアメリカの外国人看護師受け入れ政策」
- ・基盤研究(C) 小川 泰弘「精神障害とインターネット依存—実生活への影響と根拠に基づくカットオフ値の調査」
- ・基盤研究(C) 齋藤 雅子「産後1ヵ月のうつ症状の母親に特化した母子関係性促進に向けた早期介入プログラム開発」
- ・基盤研究(C) 武 ユカリ「在宅ケアにおける多職種のカスタマーハラスメント対策人材育成プログラムの開発」
- ・基盤研究(C) 中原 英博「シリコン製剤を用いた新規体内水素発生方法が持続的パフォーマンスに及ぼす効果の検証」
- ・基盤研究(C) 中沢 一雄「ローターの位相シンギュラリティ類型化に基づく心房細動停止に向けたin silico研究」

- ・基盤研究(C) 澤田 優子「ハイリスク出生コホートを活用した持続可能な子育て支援プログラムの開発評価」
- ・基盤研究(C) 井上 さや子「精神科看護師の情動コンピテンスの解明と精神看護実践用評価尺度の開発」
- ・基盤研究(C) 兼田 敏克「要支援者自身がIADL能力の程度と変化を捉える評価尺度の開発」
- ・基盤研究(C) 山本 浩一「がん治療関連倦怠感発症におけるヒスタミン・オレキシン神経系の役割解明」
- ・基盤研究(C) 布江田 友理「ウェアラブルデバイスによる拡張現実と画像処理技術を用いた実技技能評価ツールの構築」
- ・基盤研究(C) 大川 祐世「鍼技法の診療ガイドラインは実用可能か？ランダム化比較試験による検証」(延長)
- ・基盤研究(C) 今井 信也「水晶体被ばく測定機能を備えた軽量高減弱な次世代型放射線防護メガネの開発」(延長)
- ・基盤研究(C) 由利 緑巳「日本版リエイブルメントモデル」の構築に向けた IADL 障害評価表の開発研究」
- ・基盤研究(C) 戸田 淳氏「フレイル高齢者における新たな認知症予防プログラムの構築」(延長)
- ・若手研究 木下 尚紀「陽子線治療における真の線量分布を評価するシステムの構築」
- ・若手研究 大鷹 豊「高いエネルギー・時間特性を備えた核医学イメージング用検出器の開発」
- ・若手研究 中村 有希「体外式膜型人工肺における血漿リークのモニタリング方法に関する研究」
- ・若手研究 岩佐 由美「IoTを活用したパーキンソン病患者の入浴中の突然死回避のための危険予知システム開発」
- ・若手研究 松下 太「改良型Stroop testの開発とその有用性」
- ・若手研究 河西 謙吾「VRでの固有感覚に重みづけしたリーチ運動が高齢者の姿勢制御と脊柱後弯に及ぼす影響」
- ・若手研究 小田 啓之「アキレス腱断裂経験者の筋活動・形態的特徴からパフォーマンスが回復しない謎に迫る」
- ・若手研究 南都 智紀「舌圧波形表示ソフトウェアを用いたフィードバック効果に関する検討」
- ・若手研究 信江 彩加「生体内の超高解像度イメージングによるアキレス腱ツイスト構造の分類と障害リスク分析」
- ・若手研究 垣本 晃宏「放射性医薬品投与VRシステムにおける緊張感と学習効果の関連性評価」(延長)
- ・若手研究 宮下 敏紀「慣性センサーによる高齢者の歩行中の同時収縮の解析手法の開発」(延長)
- ・若手研究 堤 真大「疎性結合組織から考える股関節の運動療法革新に向けた解剖学的基盤研究」
- ・若手研究 高木 聡志「低線量肺がん CT 検診の取得データを用いて未発見の乳がんを検出することは可能か」
- ・若手研究 仲本 正美「VRを用いた座位での選択反応リーチ課題が高齢者の歩行時の足関節機能に及ぼす影響」
- ・挑戦的研究(萌芽) 小林 彩香「形態検査学教育～熟練者がもつ「目」の暗黙知を知覚心理学から解明する」

⑩ 社会連携

社会連携面では、地域に根付く医療系総合大学として、地域連携センターを中心に、大学主催の取り組みのほか、各自治体や企業等と連携して様々な取り組みを行い、社会に向けて発信してきた。特に本学が主催する取り組みとして、本学が連携協定を締結する病院や企業等と連携して行う「市民公開講座」や、本学と同じ南港咲洲地区の太陽の町にお住まいの高齢者の方々を対象に、介護予防や認知症予防、地域コミュニティの活性化を目的として学生が主体となって運営する「もりもり健康長寿サロン」など、多彩な形で企画運営し、地域と連携してそのニーズに応え、社会貢献に努めている。また、2025年度の新たな連携事業としては、JR西日本×森ノ宮医療大学「救急フェア IN 京橋駅前」を開催し、一般の方に一次救命処置の普及活動として体験会を行うなど、医療機関のみならず企業、自治体等と強固に連携し積極的な社会貢献活動を行ってきた。さらに、2025年4月13日に開幕した大阪・関西万博では、「万博に一番近い大学」として、また医療系総合大学として、健康・ウェルビーイングの観点から大阪・関西万博を盛り上げることを目的に、同じ志しを持つ5大学（関西大学・京都光華女子大学・甲南女子大学・武庫川女子大学・森

ノ宮医療大学) が連携して、5大学連携プロジェクトとして活動してきた。健康・ウェルビーイング領域の具体的な課題解決に向けた取り組みを行い、その成果については本プロジェクトの学生が大阪・関西万博 TEAMEXPOパビリオンで発表を行った。また、大阪ヘルスケアパビリオン リボンステージでは、インクルーシブ医科学研究所の工藤慎太郎所長が企業と共同開発したWalkCareを特別出展した。

これらの取り組みは教育・研究活動をベースとした社会貢献活動であり、本学は大学の社会的使命であると強く認識している。引き続き地域社会からの要望に広く応えるべく努めていく。

⑪ 2025年度連携協定

2025年12月19日

宗教法人在日本南プレスビテリアンミッション 淀川キリスト教病院 … 相互連携協定

2026年2月12日

医療法人渡辺医学会 … 相互連携協定

2026年3月16日

社会医療法人大阪国際メディカル&サイエンスセンター 大阪けいさつ病院 … 相互連携協定

⑫ 社会貢献事業

・市民公開講座

日時	テーマ	講演	タイトル	参加人数
4月24日(木) 13:30~15:30	糖尿病の“いろは”から最新治療まで	基調講演	知っていますか? 糖尿病の最前線	50名
		講演Ⅰ	上手に食べて血糖コントロール♪	
		講演Ⅱ	糖尿病のための運動療法UPdate	
		講演Ⅲ	糖尿病合併症の検査について	
11月6日(木) 13:00~15:00	大切な人を守るために、いま知っておきたい脳卒中	基調講演	脳卒中、早く気付いてすぐ運べば～急性期治療の進歩～	70名
		講演Ⅰ	急性期診療を支える画像診断	
		講演Ⅱ	脳卒中による「ことば」や「飲み込み」の障害	

・もりもり健康長寿サロン

日時	テーマ	参加者	担当教員	担当学生
4月26日(土)	高齢者の特徴	11名	寺田美和子 (看護学科)	看護学科3名
5月24日(土)	食中毒について	6名	松尾明彦 (臨床検査学科)	言語聴覚学科2名
6月28日(土)	糖尿病について	11名	三木屋良輔 (理学療法学科)	理学療法学科7名
7月26日(土)	熱中症について	10名	外村昌子 (看護学科)	看護学科2名 言語聴覚学科2名 診療放射線学科2名
9月27日(土)	認知症について	14名	山口功 (診療放射線学科)	作業療法学科4名 臨床工学科2名

10月25日(土)	季節の変わり目の 体調管理	9名	中西一・上野慶太 (作業療法学科)	理学療法学科2名 作業療法学科4名
11月8日(土)	正しいウォーキング —効果をあげるポイント—	10名	宮下敏紀 (クリニック)	作業療法学科5名
12月13日(土)	ヒートショック予防	9名	前田留美子 (言語聴覚学科)	看護学科3名 言語聴覚学科2名
1月24日(土)	冬の脱水症について	8名	楠元直樹 (臨床工学科)	臨床工学科5名
2月28日(土)	生活習慣病	5名	米花紫乃 (看護学科)	看護学科3名
3月28日(土)	関節痛は要支援の入り口	7名	宮下敏紀 (クリニック)	理学療法学科2名 臨床検査学科2名

・ほほえみクラブ

日時	テーマ	参加者
4月15日(火)	たっぷりスリーA体操	19名
5月20日(火)	お口の健康について	24名
6月17日(火)	保健師課程のお話	23名
7月15日(火)	保健師課程のお話	18名
8月19日(火)	運動について	24名
9月16日(火)	ツボ押しで介護予防！～健康は足から～	23名
10月21日(火)	楽しく脳を使いましょう	27名
11月18日(火)	たっぷりスリーA体操	26名
12月16日(火)	たっぷりスリーA体操	26名
1月20日(火)	たっぷりスリーA体操	24名
2月17日(火)	大腸がん予防について	28名
3月17日(火)	たっぷりスリーA体操	35名

(3) 森ノ宮医療大学附属 大阪ペイクリニック

『地域の皆様の笑顔と安心と未来を創るクリニック』を基本理念とし、近隣住民および近隣にお勤めの方々、さらには本学の学生・教職員を対象としたクリニック運営に注力した。

また、来院者数の増加や健診設備の拡充に対応するため、大学の一部施設をクリニックへ転用し、敷地の増床を行った。

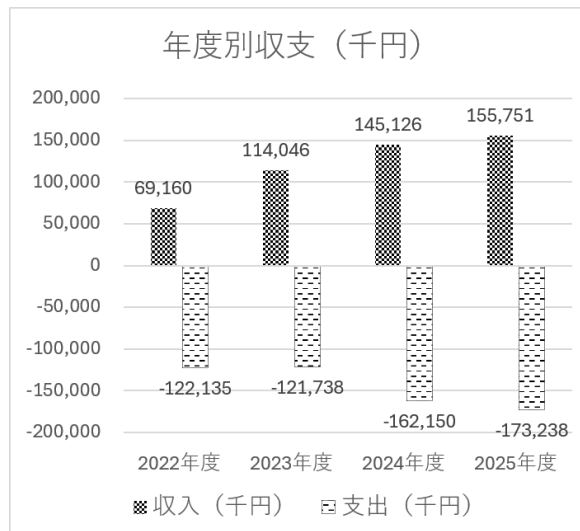
その結果、医業収入および来院者数はいずれも前年度を上回る実績となった。

① 実績報告

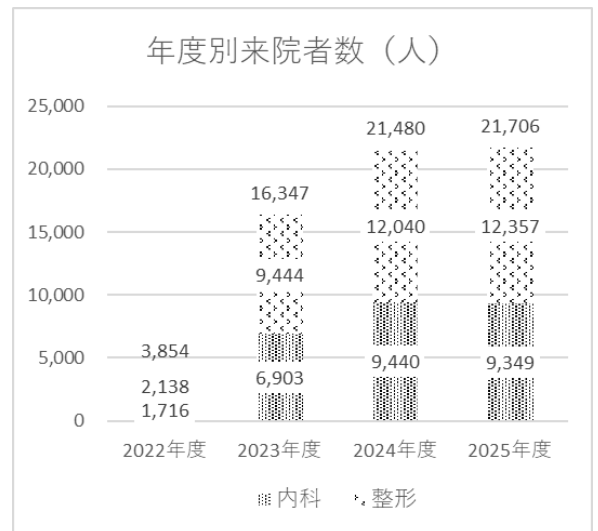
【実績】

- ・来院総数21,706名(対前年比101.1%)
- ・総収入155,751千円(対前年比107.3%)
- ・総支出173,238千円(対前年比106.8%)
- ・収支差額▲17,487千円(対前年比102.7%)

【年度別収支】



【年度別来院者数】



② 施設基準等

- ・運動器リハビリテーション（Ⅰ）
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅲ）
- ・ニコチン依存症管理料
- ・二次性骨折予防継続管理料3
- ・生活習慣病管理料Ⅱ
- ・外来感染対策向上加算
- ・医療情報取得加算
- ・DX推進体制整備加算
- ・ベースアップ評価料（Ⅰ）

③ 指定機関等

- ・保健医療指定機関
- ・難病特疾病医療機関
- ・再生医療等提供機関
- ・労災医療指定機関
- ・生活保護法等による指定医療機関

④ 連携病院

- ・大阪急性期・総合医療センター
- ・大阪国際がんセンター
- ・日本生命病院
- ・大阪みなと中央病院
- ・南大阪病院
- ・おおさかグローバル整形外科病院
- ・南港病院

- ・多根総合病院
- ・JCHO大阪病院
- ・行岡病院

⑤ 本学との連携実績

- ・学生実習受入（看護学科、理学療法学科）
- ・各種ワクチン接種業務（B型肝炎、インフルエンザ等）
- ・学生実習前検査業務
- ・体調不良学生の受け入れ
- ・職員定期健康診断業務
- ・新入教職員健診業務

2. 森ノ宮医療学園専門学校

【サマリー】

2025年度は、少子化や社会人入学者の減少といった外部環境の影響を受けつつも、教育の質向上と学修支援体制の強化、臨床教育の充実を軸に事業を展開した。

鍼灸学科では入学者数が減少し、特に社会人層の獲得が課題として顕在化した。一方で、学修支援センターとの連携により学力不振による退学は減少傾向にあり、個人カルテを活用した成績・生活情報の一元管理と面談指導により、教員間の情報共有と継続的なフォロー体制が確立されている。臨床教育では低学年からの実習導入、附属鍼灸院や外部見学、シミュレーション実習を通じて段階的に職業理解を深化させた。

国家試験対策ではゼミや講習を体系的に実施し、合格率ははり師87.2%、きゅう師91.5%と前年同水準を維持したが、早期からの意識付けが今後の課題である。

柔道整復学科では入学者数は維持されたものの、同様に社会人層の確保が課題となった。学生支援では学修をサポートする「寺子屋」や面談指導の充実により退学者減少を実現し、パーソナルデータを活用した多面的支援が機能している。附属接骨院での段階的な臨床実習を提供したほか、柔整トレーナーコースではスポーツに特化した実習を行い、専門性の高い学びを実現した。国家試験では少人数制指導の徹底により合格率96.9%と過去最高を達成した。

教育活動を支える各部門の取り組みも着実に成果を上げた。スポーツ臨床センターでは各スポーツ大会の救護やトレーナー活動に多数の学生が参加し、実践的な経験機会の提供とともに広報活動との連動した高校部活対象出張講座では学生募集にも寄与した。

附属施術施設では、みどりの風鍼灸院でタブレット導入や指導体制の強化により実習の効率化と質向上の実現し、みどりの風接骨院で全学年での継続的学習の実習を実施と丁寧な指導体制を維持したほか、卒後研修制度を開始した。両施設で安定した患者数のもと教育環境を充実させた。

学修支援センターでは、成績下位者に対する面談を中心に生活習慣を含めた指導を行い、担任と連携した重層の支援体制を構築した。教学課ではキャリア支援媒体の配信や就職相談会の開催、内定状況把握の仕組み整備などにより、学生の就職活動を組織的に支援した。入学広報課においては「臨床の森ノ宮」を軸とした広報展開とWeb施策の強化により、来校者数・志願者数の増加を実現した。

さらに、図書課では電子書籍の活用や蔵書整理による学習環境の整備、管理課では施設改修や設備更新による安全・快適な教育環境の維持、総務経理課では業務の効率化と経費削減の推進により、学校運営の基盤強化に寄与した。

今後は、社会人を含む多様な志願者層の獲得に向けた戦略強化と、低学年からの学修意識および国家試験対策のさらなる充実を図るとともに、各部門が連携した教育支援体制の高度化が求められる。

（１） 実施事業の概要

【鍼灸学科】

2025 年度入学生は昨年度に比べ減少した。特に社会人が減少傾向であり、本校の特徴やターゲットとする層の獲得に工夫が必要である。在校生については、学力不振による退学が学修支援センターと協力し近年減少傾向になっている。一方、社会人の仕事との両立や親族の介護による退学の抑制は困難であった。学生の成績管理は定期試験の他、診断テストや模擬試験を実施し、個人カルテを作成し適宜面談を実施し、特別強化授業への参加を促しフォローしている。成績以外の情報も個人カルテに入力しているため、活用することで教員間での情報共有は円滑にできている。臨床実習では、職業理解を促すため、1 年生の早い段階から実施している。附属鍼灸院では鍼灸師の基盤となる患者への応対を中心に 3 年生では、ベッドサイドで治療補助を行っている。外部鍼灸院見学では、授業では学べないリアルな現場を見学し、将来像を描けることも目的としている。3 年生で行うシミュレーション実習では今までの集大成として模擬患者への問診から治療までを教員監督のもと実施している。授業外での学びについて、ゼミ関連では、年間を通じて計画し、学生へできる限り事前に告知することで参加を促し、モチベーションの向上を図った。今後はさらに外部講師を招聘し、学生のニーズにあった内容を企画していきたい。また、卒業生を対象とした森ノ宮鍼灸セミナー「臨活」も年に 3 回実施し卒業後も学べる機会の確保を図っている。職業観の養成の取り組みとして、鍼灸受療体験制度を導入している。主に卒業生の鍼灸院と連携し、治療日は学校負担で鍼灸治療を受ける機会を設けている。これは、「鍼灸師になりたい」という明確な目標を持って入学する学生が大多数であるが、そうでない学生をフォローすることを目的にしている。国家試験対策として 3 年生へ週 3 日～4 日のゼミを行った。また、夏季講習、冬季講習も実施した。国家試験直前の 2 週間は強化授業を実施した。結果としては、はり師 87.2%、きゅう師 91.5%と昨年度と同等の成績となった。3 年生になってからの取り組みでは十分でないケースも散見されるため、1・2 年生のときから国家試験を意識されることも必要と考えられる。教員の自己研鑽については、東洋療法学校協会の教員研修会や全日本鍼灸学会を中心に参加しやすい環境を整備している。

【柔道整復学科】

2025 年度入学生は昨年度に比べ現状維持であった。少子化と業界を取り巻く状況が厳しいなか、高校での部活動出張講座やオープンキャンパスやガイダンスなどの高校 1、2 年生の早い段階で接点を持ったことによることが要因としてあげられる。しかしながら、社会人については、本校の特徴やターゲットとする層の獲得に工夫が必要である。在校生については、学力不振による退学が減少しており、学修をサポートする寺子屋の開催と学修支援センターによる経時的な面談による成果である。学生の成績管理は定期試験の他、診断テストや模擬試験を実施し、パーソナルデータを作成し適宜面談を実施し、各学年の取り組みへの参加を促しフォローしている。成績以外の情報も共有できるため、教員間のみならず各部署担当者との情報共有が円滑にできている。附属接骨院での臨床実習では、職業理解を促すため、1 年生から 3 年生まで段階的に習熟できるプログラムとしており、実際の患者と接することで、授業では学べないリアルな経験を通じて成長を図れている。また、柔整トレーナーコースについては、INAC 神戸でのスポーツ現場実習およ

び、ERP 下鴨南治療院実習において、さらにスポーツに特化した内容について深く学ぶことができています。授業外での学びについて、夏期に実施している外部接骨院実習では希望者に対して実施し、より多様な内容を学ぶことができ、将来像を描くことができています。ゼミ関連では、年間を通じて計画し、学生へできる限り事前に告知することで参加を促し、モチベーションの向上を図った。さらに今年度は、外部講師として卒業生を招聘し、学生のニーズにあった内容を展開した。国家試験対策として3年生では、全学生を対象にした少人数制の winners にてきめ細やかな学修のサポートを行った。また、夏期休暇中の勉強会、年末勉強会、国家試験直強化授業も実施した。結果としては、国家試験合格率 96.9%と過去最高の結果となった。3年生になってからの取り組みでは十分でないケースも散見されるため、現在も実施している1・2年生次のときからの国家試験に向けた意識付けを引き続き行っていきたい。教員の自己研鑽については、全国柔道整復学校協会の教員研修会や日本柔道整復接骨医学会を中心に参加しやすい環境を整備している。

【学修支援センター】

元高等学校校長の職員を中心に、学修に関するフォローを行っている。面談を中心に科目の内容ではなく、生活習慣を含めた勉強への取り組み方や工夫の仕方などをアドバイスしている。面談の時期は主に診断テストや定期試験の後に担任から面談者の依頼を受け行っている。担任では相談できないことも内容にはあり、担任との両輪で学生をサポートできている。また、校内を定期巡回し学生への声掛けなど細かな指導を実施している。この他、新入生オリエンテーションでの授業への心構えや入学式で保護者へ3年間の学修の概要や家庭でのフォローのお願いなども行っている。現在は成績下位者を中心に取り組みを行っているが、今後は成績上位者に対する取り組みも企画していきたい。

【スポーツ臨床センター】

運動療法センター利用状況について、利用者総計866名、初回講習受講者80名であり、多くの学生に利用してもらっており、さらに学生生活の満足度に貢献していきたい。

スポーツトレーナーインターンシップについては、マスターズ甲子園や柔道近江杯、大阪府高体連森ノ宮杯をはじめとしたトレーナー、救護活動に柔道整復学科、鍼灸学科併せて40名を超える学生が参加し、学内だけでは学ぶことができない外傷の処置やコンディショニングについて経験できる機会となった。また、入学広報課と連携した高校部活対象出張講座においては、学生ボランティアスタッフ登録数42名、同行した出張講座6校、同行した学生数18名であり、学生の学びの機会のみならず学生募集にもつなげることができた。さらにスポーツ臨床センター主催でオリンピック日本代表トレーナーを招致したセミナーを開催した。

【教学課】

2025年度の学生健康診断については外部医療機関に出張健康診断を依頼の上、6月6日に実施し、当日に欠席した学生の健康診断は6月中に個別に行い、最終的な受診率は96.6%であった。教育訓練給付制度利用者および日本学生支援機構奨学金を始めとする奨学金を利用する学生に対

し、申請書類の発行また関連する支援を行った。キャリア支援では、今年度から「CARESTA（キャリアスタ）」というキャリアに関する情報通信媒体を2ヵ月に1回制作し、学生に向けて配信を行った。「CARESTA（キャリアスタ）」のコンテンツは業界の動向や就職に関する校内イベントの案内、就活の動機付けを促す内容となっている。また、10月5日に本校独自の就職相談会を開催し、参加治療院72院、参加学生55名であった。2026年3月14日には本校主催の就職相談会「Morinomiya Job Festa」を初めて開催した。企業エントリー数は約150件、うち選定企業数が30社また施術体験ブース設置企業を10社招いた。参加学生数は51名であった。参加企業の募集、印刷物制作、当日運営などは外部業者へ委託した。2024年度卒業生を対象に、9月下旬に卒業後の進路調査を実施し、調査案内は郵送にて送付し、回答はGoogleフォームを用いて収集した。その結果、2024年度卒業生の現状把握を行うことができた。在学生へは2025年度より、3年生の内定状況を把握するため「内定報告書」を新たに作成し、運用を開始した。次年度はさらに学生の就職活動の進捗を正確に把握できる体制を整えていきたい。また、治療院等の就職先からの求人票を受付けて、学生の就職活動をサポートした。入学予定者へのサポートとして、毎年実施している次年度入学予定者を対象とした入学前通信教育については76名の利用があった。そのうち早期合格者特典として履修した入学予定者は56名であった。また、2026年1月18日に2025年度入学予定者を対象としたプレスクールを開催した。両学科併せて65名の参加があり、アンケート結果では満足度95%であった。その他、はり師きゅう師国家試験および柔道整復師国家試験の出願のサポートやみどりの風保育園の運営、自己点検・自己評価報告書の作成を行った。

【企画課】

- ・2024年度から入学生にiPadの支給を開始したがそのための取組みとして以下を実施した。
iPad設定および使用のための資料作成・オリエンテーションでのiPadの設定・授業時にiPadおよび医書jpの使用方法についての講義・タブレット相談窓口の設置・故障時の対応・授業時間外における学生向けタブレット講座・教員向けのタブレット使用講座
- ・タブレット相談窓口は、毎週火曜日（12時30分～13時00分／16時30分～17時00分／17時30分～17時50分）を設置した。
- ・タブレットが故障した学生へのタブレット貸し出しを実施した。
- ・学生向けタブレット講座は年に3回実施した。内容は「Goodnotes講座（初級編）」「Goodnotes講座（上級編）」「iPadOS26の使い方」である。
- ・教員向けタブレット講座は、東洋療法学校協会が実施している電子教材導入講座を利用して実施した。
- ・2023年度から導入したTeamsの管理を実施した。新たなTeamsの活用方法についての検証を実施した。
- ・東洋療法学校協会主催のイベント（要穴カルタ大会・臨床実習指導者講習会）のサポート業務を実施した。

【総務経理課】

- ・WEB出願も2年目になったが、大きなトラブルもなく業務を遂行できた。
- ・定期的に規程内容を確認して整合性がとれていない箇所のチェックを行った。
- ・2024年にダブルスクールを専攻している学生が退学したことにより、減免額の返還が2024年度末に発生したが、全額納付された。
- ・在校生は2025年度末で未納者はなく全額納付された。
- ・券売機を電子マネー対応にした。
- ・経費削減のため、緊急を要しない修繕などは2026年度予算申請時に優先順位をつけて予算申請するようにした。継続してペーパーレスやカラーコピーの削減をおこない、経費削減に努めた。消耗品は再利用可能な物は再利用するよう各部署に依頼実行した。

【管理課】

- ・事務局内 非常放送設備の取替工事を実施した。
- ・本校舎7階講堂 LED改修工事を実施した。
- ・本校舎6階 北館側階段窓水切り部の改修工事を実施した。
- ・本校舎606教室 空調修繕工事を実施した。
- ・本校舎601教室、506教室、406教室、101教室 プロジェクターの入替を実施した（学生会寄贈として）。
- ・本校舎503実技室 照明を全LED化した。
- ・本校舎102実技室、みどりの風鍼灸院 換気扇の分解清掃を実施した。
- ・本校舎1階 階段下倉庫内のFIX窓取替工事を実施した。
- ・本校舎 階段巾木の補修を実施した。
- ・アネックス校舎 給水ポンプの修繕工事を実施した。
- ・緑橋校舎屋上 防水補修工事を実施した。
- ・緑橋校舎1階、3階 壁クロスの補修を実施した。
- ・本校舎3階学生ホール 椅子・テーブルの入替を実施した。
- ・本校舎、アネックス校舎 合計2台のAEDの入替を実施した。
- ・本校舎、アネックス校舎、緑橋校舎の年次停電点検を実施した。
- ・東成消防署立ち会いのもと、本校舎、緑橋校舎の消防訓練を実施した。
- ・9月に2019年以来、近隣一般の方も参加する元のスタイルの学園祭を実施し、そのサポートを行った。
- ・図書室 書庫整理に協力した。
- ・事務局での学生・教職員向け冷凍食品の販売について2,245食の売上げがあり、販売開始以来、過去最高となった（昨年度1,555食）。
- ・7月より3階学生ホールにてブルードーナツの出張販売を開始した。
- ・春季、夏季、冬季の休講を利用して、緑橋校舎2階テナントの一般社団法人ぐんぐんPOE利用者に柔道場・アネックスグラウンドを開放した。

【図書課】

- ・電子書籍を導入し学外から書籍の閲覧が可能となっており、閲覧数も昨年度と同様に1,400程度の閲覧数があった。
- ・年度の上半期および下半期に教職員を対象に図書購入リクエストを実施したが、蔵書も増えており整理するため、2月以降は教職員のリクエスは保留した。ただし、学生リクエストは実施した。
- ・図書室運営委員会は、リクエストの承認のみデスクネッツでの開催となった。昨年度は2回実施したが、図書の蔵書点検や蔵書数の確認作業で開催はしていない。ただし、書籍のリクエストがあったときは、デスクネッツ上で各委員に承認を得るよう運営した。
- ・校友会から図書購入費として 20 万円の補助を受け、図書購入を行った。
- ・図書室会議を月に一度開催し、新規図書購入リストの作成や図書室運営の改善について検討を行い、随時実施した。
- ・図書室書架の書籍について夏場に蔵書点検を行い過去の不明本や古い書籍など廃棄を行った。
- ・異動や退職者があったが、学生サービスを落とすこともなく少人数で最低限の運営はできた。

【入学広報課】

- ・入学広報課では、高校生・大学生・社会人等の幅広い募集対象者に対して、「臨床の森ノ宮」を基本コンセプトに据えて情報発信を強化しつつ、本校の教育内容の周知、認知度向上を主軸に広報活動を行った。中でも主媒体となる学校案内パンフレットを大きくリニューアルし、公式WEBサイトとも連動を図ることで統一したメッセージを発信できるようにした。
- ・各種学生募集イベントにおいても「臨床の森ノ宮」をベースにプログラムを組み立て、年間を通してオープンキャンパス・社会人のための学校説明会・平日ミニオープンキャンパス・AO入試対策講座・個別見学会など、ターゲットを明確に設定したうえで実施した。「来校者数」を指標として重視し、イベント申し込みの流入経路を多角化するための公式WEBサイトの修正、来校特典刷新、イベント内容の見直し、高校ガイダンスからの来校強化を行ったことにより、2024年度を大きく上回る来校者数となった。
- ・WEB関連では、ターゲット別（高校生・社会人）ページ・学科ページ・イベントページ等をリニューアルするとともに、検索時の上位表示を目的としたSEO対策やMEO対策、また、リスティング広告・リターゲティング広告・SNS広告へ出稿した。加えて、インスタグラム・Facebook・X・LINEによる情報の発信、高校訪問、高校ガイダンス、部活動出張講義の実施、各進学媒体への広告出稿を行った。

■学生募集に関する主な結果

- ・資料請求者数 5,879件(昨年比 85.1%)
- ・イベント来校者数（のべ）：667名（昨年比 113.2%）
- ・イベント来校者数（実数）：454名（昨年比 112.9%）
- ・志願者数 168名（昨年比 119.1%）

【みどりの風鍼灸院】

- ・2024年度より導入したタブレットにより、1年次の見学実習・2年次の実習においてはタブレットを用いて実施している。資料およびレポートについてもタブレットを活用し、レポートをTeamsから提出するシステムに変更した。それにより、今まで登校しないと提出できなかったレポートが自宅から提出できるようになり、提出状況もスムーズに確認できるようになった。
- ・1年次のシミュレーション実習（血圧測定など）を行って2年目となるが、それにより、2年次のみどりの風鍼灸院での実習内容の充実を図れるようになった。3年次にベッドサイド実習へスムーズに移行するために、2年次での基礎実技の内容も充実してきている。
- ・教務の教員が週1回、みどりの風鍼灸院での臨床に入るようになったことにより、基本的に常時、鍼灸師3名体制がとれ、1日の平均患者数も安定して15名を越え、実習を実施することに問題がない状態となっている。また、実習助手を常時1名置くことにより、教員は患者への施術により重点を置くことができるようになっている。
- ・保険診療・往診診療も継続実施している。マイナカードの導入においてもスムーズに移行がはかれている。

【みどりの風接骨院】

- ・全学年について、3年間経時的に学び続けることができる内容を構成して行っている。接骨院スタッフも充足しているとは言えないが、きめ細やかな指導が行えている。今年度より卒業後研修生制度を設け、現在1名の卒業生が研修中（週1回2時間）である。今後に向けてより本格的な導入に向けて進めている。
- ・延べ患者数は以下の表の通りである。微増ではあるが、実習で患者と接する機会を確保することができた。また、今年度はクリニックやスポーツ団体との連携を図ることで患者数の確保につなげることができた。

■延べ患者総数（ ）内外傷患者数

年月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
23年度	69	93	129	93	65	142	153	141	135	140	147	179	1,486
	(25)	(17)	(35)	(14)	(7)	(32)	(20)	(17)	(7)	(15)	(15)	(15)	(219)
24年度	177	202	204	244	191	218	262	258	214	222	233	270	2,695
	(28)	(27)	(34)	(41)	(17)	(16)	(40)	(46)	(11)	(24)	(35)	(50)	(369)
25年度	256	248	300	286	169	201	225	216	205	211	209	216	2,742
	(30)	(38)	(57)	(59)	(24)	(41)	(55)	(28)	(42)	(40)	(50)	(58)	(522)
前年比	145%	123%	147%	117%	88%	92%	86%	84%	96%	95%	90%	80%	102%

(2) 各種データ編

① 在籍学生数

(単位：人)

2025年 4月1日現在		1年			2年			3年			合計		
		在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)
鍼灸学科	昼	66	0	0	70	0	0	49	0	1	185	0	1
	夜	21	0	1	20	1	1	12	0	1	53	1	3
柔道整復 学科	昼	30	0	0	24	0	0	26	0	1	80	0	1
	夜	15	0	0	13	0	0	11	0	0	39	0	0
合計		132	0	1	127	1	1	98	0	3	362	1	5

* 留年および休学は在籍者数の内数

(単位：人)

2024年 4月1日現在		1年			2年			3年			合計		
		在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)
鍼灸学科	昼	75	0	0	53	1	1	58	2	1	186	3	2
	夜	25	1	1	9	1	0	13	2	2	47	4	3
柔道整復 学科	昼	29	0	0	25	1	1	26	0	0	80	1	1
	夜	15	0	0	12	1	1	22	1	0	49	2	1
合計		144	1	1	99	4	3	119	5	3	362	10	7

* 留年および休学は在籍者数の内数

(単位：人)

2023年 4月1日現在		1年			2年			3年			合計		
		在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)
鍼灸学科	昼	58	2	0	64	3	3	65	0	1	187	5	4
	夜	12	0	0	13	1	1	15	2	2	40	3	3
柔道整復 学科	昼	33	1	0	33	0	0	37	1	0	103	2	0
	夜	11	0	0	23	2	1	15	0	0	49	2	1
合計		114	3	0	133	6	5	132	3	3	379	12	8

* 留年および休学は在籍者数の内数

② 年度別退学者数

(単位：人)

年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
退学者数	36	22	23
退学者比率	9.5%	6.0%	6.4%
在学生数	379	362	357

③ 志願者数

(単位：人)

入試実施年度		2023年度	2024年度	2025年度
学科	コース	志願者	志願者	志願者数
鍼灸学科	午前コース	44	42	51
	昼間コース	39	30	41
	夜間コース	26	23	30
柔道整復学科	選択コース	20	18	20
	昼間コース	10	16	11
	夜間コース	16	15	15
合計		155	144	168

④ 国家試験合格率

■2025年度

はり師きゅう師国家試験（第 51 期）

国家試験成績		2025年度（第34回）2026年2月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	はり師	47	41	87.2%
	きゅう師	47	43	91.5%
全現役受験者	はり師	3,048	2,543	83.4%
	きゅう師	3,047	2,616	85.6%
本校全受験者	はり師	85	47	55.3%
	きゅう師	81	49	60.5%
全受験者	はり師	3,920	2,634	67.2%
	きゅう師	3,858	2,720	70.5%

柔道整復師国家試験（第 24 期）

国家試験成績		2025年度（第34回）2026年3月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	柔道整復師	32	31	96.9%
全現役受験者	柔道整復師	2,982	2,692	90.3%
本校全受験者	柔道整復師	67	37	55.2%
全受験者	柔道整復師	4,434	3,170	71.5%

■2024年度

はり師きゅう師国家試験（第 50 期）

国家試験成績		2024 年度（第3 回）2025年2月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	はり師	61	54	88.5%
	きゅう師	61	55	90.1%
全現役受験者	はり師	3,169	2,831	89.3%
	きゅう師	3,168	2,846	89.8%
本校全受験者	はり師	103	60	58.2%
	きゅう師	105	64	60.9%
全受験者	はり師	4,150	3,066	73.8%
	きゅう師	4,094	3,068	74.9%

柔道整復師国家試験（第 23 期）

国家試験成績		2024年度（第33回）2025年3月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	柔道整復師	38	33	86.8%
全現役受験者	柔道整復師	3,188	2,419	75.9%
本校全受験者	柔道整復師	77	38	49.4%
全受験者	柔道整復師	4,513	2,607	57.8%

⑤ 求人状況（2026年2月時点）

	鍼灸学科	柔道整復学科
有効求人登録件数	2,159	2,422

3. 関連事業部門

(1) 森ノ宮医療学園出版部

1. 学生、卒業生への知識や情報の開示と還元

① 主力雑誌の継続的発刊

Tehamo12号から13号までの2号を発刊。継続的かつ予定通りの発刊を行った。『あとはとき』と『鍼灸OSAKA』を合本し大幅リニューアルし5年目に至るが、主制作担当者が外部委託となっているものの雑誌の刊行を無事実施できた。広告収入を含めると2025年度のTehamoについては黒字となっている。

テーマ：不定愁訴の診方と治療/あはき等法推進協議会と法改正活動（12号_2025.8.29発行）、嚥下障害へのアプローチ/あとはときのつみのこし（13号_2026.2.27発行）
視覚支援学校への定期講読案内を実施し2025年度は22校となっている。

また、販売後比較的早期に在庫を終了し、その後購入の問い合わせが続いた雑誌3種を増刷し再版した。

「冷えと冷え性」（鍼灸OSAKA138号）、「眼科疾患への治療」（鍼灸OSAKA139号）、「関節リウマチの治療とQOL/慢性の痛み対策基本法案とは」（Tehamo1号）

② 既刊本ならびに雑誌のブラッシュアップ

在庫僅少による増刷2種『臓腑経絡学第4版第4刷』、『経穴カルタ』。2種増刷したものの、既刊本としては総計で黒字となった。

③ 教科書等販売

専門学校学生の教科書販売も実施し、鍼灸学科48,353円（販売6,394,905円仕入6,346,552円）、柔道整復学科121,025円（販売4,562,914円仕入4,441,889円）の売上となった。電子教科書の利益が見込めないため（書店定価仕入）売上よりも学生への還元事業としての実施となった。次年度は書店と相談し、契約を見直したい。

2. 学園広報への貢献

① 出展・広告への参画

出展においては新型コロナウイルスの影響も収束し、ハイブリッド式や従来の現地開催のみの出展に戻ってきている。出版部では検討し「第75回日本東洋医学会学術総会2025.6.7～8_京王プラザホテル」「第53回日本伝統鍼灸学会学術大会（2025.10.11～12タワーホール船堀）」「第19回日本小児はり学会学術集会（2025.11.2エル・おおさか）」へ出展参加した。

広告も日本鍼灸新報、現代鍼灸学、伝統鍼灸、メリディアン、鍼灸柔整新聞、漢方の臨床、中医臨床、経絡治療、日本小児はり学会会誌など学会誌や業界誌へ、販促の重要なツールとして引き続き参画した。

② 代田賞

医道の日本社より移管された「代田賞」の事務局を鍼灸情報センターと協力し運営した。6月末論文締切、9/25（代田文誌命日）授与、『Tehamo』13号（2026.02.28発行）論文掲載・次回募集掲載を実施。また、広報誌の在庫が僅少になったため、増刷を実施した。

③ 他社出版物への制作補助

日本刺絡学会より会誌『刺絡』の制作依頼があれば請負業務として出版部で制作。1号発行し、制作費も回収済み。全日本鍼灸学会認定講習用テキストの制作、形井秀一先生を中心とした制作物、医道の日本社「はじめての鍼灸」の制作も検討されている。

3. 収益事業としての継続

「販売管理の徹底」

正確なデータを収集するため、受発注者を絞り、入力や発送など基本的事項を見直す作業に注力していたが、作業は継続したまま、受発注をはじめとした作業のマニュアル化など、管理の段階を進めている。「収益拡大」を目標に、ハードル一つ一つを超えることを現段階では重視している。

(2) 京都治療院

① 人員体制

常勤：柔道整復師 1 名、鍼灸師 1 名 計 2 名 / 受付：2 名（午前 1 名、午後 1 名）

② 治療院業務日数

・診療日数 218日

診療日時 9:00～12:30（受付終了：12:00）／16:00～20:00（受付終了 19:30）

月～金（休診：土・日・祝日・他）

・休診日数 148日

③ 広報・院外活動

「継続活動」

・トレーナー活動

（京都大学：男子・女子ラグロス部、京都精華高校：男子・女子サッカー部）

・運動部マネージャー等対象とした勉強会（ケガ予防やテーピング方法等）を毎月開催。

・治療院前でのブラックボード設置やホームページ、LINE@、Instagram、Facebook による情報発信。自費メニューキャンペーン等の実施。

・精華高校女子サッカー部の夏合宿に、専門学校の学生、卒業生を2日間で計13人帯同、トレーナー活動の現場を体験することができた。

・精華高校女子サッカー部・京都大学女子ラグロス部・京都大学男子ラグロスの試合や練習にも学生、卒業生を帯同させ、トレーナー活動の現場を体験できた。

・近隣大学運動部（京都大学・京都産業大学）ほか、京都市内の学校へのアプローチ。

・御所東クリニックとの医療連携。

・環境省参画の「熱中症予防声かけプロジェクト」の活動として、治療院前に「暑さ指数」を掲示し、通行人等へ熱中症の注意喚起を行った。

・自費メニューとして、慢性施術・美容鍼・アロマオイルトリートメント・パーソナルトレーニング・酸素カプセル・医療機器レンタル・物販の実施。

・発達障害支援サイト「凸凹じぶんび」に鍼灸に関するコラムを掲載。

・臨床実習施設として、森ノ宮医療学園専門学校 柔整トレーナーコースの実習を計47回（前期：2年生 11回、中期：1年生 8回・2年生 10回、後期：1年生 8回・2年生 10回）実施し、施術者の管理のもと、学生による問診、施術の実習を行った。また、森ノ宮医療大学 鍼灸学科 2年生2名（1日）を受け入れ、鍼灸・アロマ・接骨などの施術見学、トレーニング見学のほか、鍼灸施術受療体験、物療機器の説明・体験をする実習を行った。実習生2名ともスポーツトレーナー活動にも興味があったため、中村院長の精華高校女子サッカー部トレーナー活動にも帯同し見学する実習も行った。

・近隣施設の吉田児童館にて、子育て世代の父母を対象に、鍼灸師による肩こり・腰痛のセルフケアに関するセミナーを実施。セミナー時に院のチラシも配布し、セミナー参加者の来院に繋げた。

- ・既存患者に対して、各種自費メニューの追加や体の施術のみの鍼灸メニューから単価の高い美容鍼メニュー(体+顔の鍼灸)への移行を促し、患者1人あたりの単価向上に繋げた。
- ・化粧品会社ドクターピュアラボと提携し、商品を導入。在庫を保持しない形式での販売方法を交渉し、オンライン販売を導入。
- ・ドクターピュアラボの商品を美容鍼のオプションメニューとして導入し、施術の満足度向上・患者のマナー化を防ぐための施術バリエーションの拡大に繋げた。また、単価の高い商品についても、初回キャンペーン・複数購入特典等の工夫をし、販売を促進した。
- ・ドクターピュアラボ主催の美容セミナーに参加し、美容に関する最新情報・専門的知識を取得、患者への施術時の説明・アドバイスに反映させ、患者満足度・単価向上に繋げた。
- ・ドクターピュアラボの美容スタッフを講師に招き、美容セミナーを開催した。セミナー参加者対象に、美容鍼広報・割引キャンペーンも行った。
- ・インディバ社主催のセミナーに参加し、知識と技術の向上に努めた。

「新規活動」

- ・鍼灸・美容等自費部門の単価値上げ実施。
- ・京大女子サッカー部連携
- ・接骨：メイン患者の学生意見から、単価を下げ、来院頻度増加を計画

④ 運営状況等

2025年度の運営状況は、下表の通りとなるが、2月末で閉院のため、データは2025年4月～2026年2月までとなる。鍼灸部門では注力した美容分野は売上が増加したが、通常の鍼灸が下がった。柔整部門は患者数、売り上げ共に増加した。

■延べ患者総数 単位：人

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
24 年 度	接骨	147	159	131	137	88	174	191	146	99	90	89	107	1,558
	鍼灸	81	65	72	70	59	56	64	60	61	62	59	62	771
	美容鍼（ア ロマ含）	27	42	37	41	21	41	36	28	27	35	31	33	399
	その他	18	30	30	30	35	25	28	9	13	13	10	16	257
	合計	273	296	270	278	203	296	319	243	200	200	189	218	2,985
25 年 度	接骨	171	159	203	236	99	206	259	184	139	89	90	0	1,835
	鍼灸	53	48	46	62	54	53	42	36	42	33	37	0	506
	美容鍼（ア ロマ含）	22	17	23	35	23	23	21	21	11	13	19	0	228
	その他	9	10	17	18	19	15	12	7	17	8	27	0	159
	合計	255	234	289	351	195	297	334	248	209	143	173	0	2,728
前年比 （今期÷前期）		93.4%	79.1%	107.0%	126.3%	96.1%	100.3%	104.7%	102.1%	104.5%	71.5%	91.5%	0.0%	91.4%

III. 内部統制システムの方針と運用

【学校法人森ノ宮医療学園 内部統制システム整備の基本方針】

本学園は、令和7年3月4日、理事会において、理事の職務執行が法令・寄附行為に適合すること及び業務の適正を確保するための体制の整備に関し、本学園の基本方針を以下のとおり決定した。

1. 経営に関する管理体制

- ① 理事会は、定時に開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、法令・寄附行為に従い、必要な事項については評議員会の意見を聴いたうえで、業務執行上の重要事項を審議・決定するとともに、理事の職務執行を監督する。
- ② 寄附行為並びに「理事会・評議員会運営規程」に基づき、理事会及び評議員会の役割、権限及び体制を明確にし、適切な理事会及び評議員会の運営を行う。
- ③ 「役員服務規程」に基づき、業務を執行する理事の担当業務を明確化し、事業運営の適切かつ迅速な推進を図る。
- ④ 職務分掌・決裁権限を明確にし、理事、職員等の職務執行の適正性を確保するとともに、機動的な業務執行と有効性・効率性を高める。
- ⑤ 理事会、評議員会等の重要会議の議事録その他理事の職務執行に係る情報については、寄附行為及び「文書取扱規程」に基づき、適切に作成、保存及び管理する。
- ⑥ 業務執行機関からの独立性を有する内部監査部門を設置し、業務の適正及び効率性を確保するため、業務を執行する各部の職務執行状況等を定期的に監査する。

2. リスク管理に関する体制

- ① リスク管理に関し、体制及び「危機管理規程」を整備し、リスク対応方法等を明確にした上、理事長を最高責任者とするリスク管理体制を構築するものとする。
- ② 「個人情報保護に関する規程」に基づき、個人情報の保護と適切な管理を行う。
- ③ 事業活動に関するリスクについては、法令及び本学園の規程等に基づき、職務執行部署が自律的に管理することを基本とする。
- ④ 重要リスクが漏れなく適切に管理されているかを内部監査室が適宜監査し、その結果について業務を執行する理事及び理事会に報告する。
- ⑤ 本学園の経営に重大な影響を及ぼすおそれのある重要リスクについては、理事会で審議し、必要に応じて対策等の必要な事項を決定する。
- ⑥ 災害、事故その他の緊急時に備え、対応組織や情報連絡体制等について規程等を定めるとともに、継続的な教育と定期的な訓練を実施する。
- ⑦ 研究活動について、内部牽制機能による研究費の適正経理、研究不正の防止及び知的財産の保護を確保するため、規程等を定めるとともに、必要な措置を講じる。
- ⑧ 理事会は、その都度、業務執行に関するリスクを特定し、見直すとともに、リスク管理体制についても見直しを行う。

3. コンプライアンスに関する管理体制

- ① 理事及び職員が法令並びに寄附行為及び本学園の規程を遵守し、確固たる倫理観をもって事業活動等を行う組織風土を高めるために、「コンプライアンス規程」を定める。
- ② 本学園のすべての役職員のコンプライアンス意識の醸成と定着を推進するため、不正防止等に関わる役職員への教育及び啓発活動を継続して実施、周知徹底を図る。
- ③ 本学園に匿名相談できる内部通報窓口を常設して、不正の未然防止を図るとともに、速やかな調査と是正を行う体制を推進する。通報窓口又は監事に対しコンプライアンスに関する相談又は違反に係る通報をしたことを理由に、不利益な取扱いを行わない。
- ④ 内部監査室は、職員等の職務執行状況について、コンプライアンスの観点から監査し、その結果を理事会に報告する。理事等は、当該監査結果を踏まえ、所要の改善を図る。
- ⑤ 法令・寄附行為違反等の行為が発見された場合には、「コンプライアンス規程」に従って、理事会において迅速に状況を把握するとともに、外部専門家と協力しながら適正に対応する。

4. 監査環境の整備（監事の監査業務の適正性を確保するための体制）

- ① 監事は、「監事監査規程」に基づき、公平不偏の立場で監事監査を行う。
- ② 監事は、理事会、評議員会等の重要会議への出席並びに重要書類の閲覧、審査及び質問等を通して、理事等の職務執行についての適法性、妥当性に関する監査を行う。
- ③ 監事は、理事会が決定する内部統制システムの整備について、その決議及び決定内容の適正性について監査を行う。
- ④ 監事は、重要な書類及び情報について、その整備・保存・管理及び開示の状況など、情報保存管理体制及び情報開示体制の監査を行う。
- ⑤ 監事の職務を補助するものとして、監事の求めに応じ、独立性を有する補助職員を配置する。
- ⑥ 補助職員は、監事の指揮命令下で業務を行い、監事以外からの指揮命令を受けないものとし、当該補助職員の異動、人事評価及び懲戒等については、監事の意見を尊重する。
- ⑦ 補助職員は、監事に同行して、理事会、評議員会等の重要な会議及び理事長との定期的な会合に陪席する。
- ⑧ 理事又は職員等は、本学園に著しい損害を与えるおそれのある事実又は法令、寄附行為その他の規程等に反する行為等を発見したときは、直ちに理事長、業務執行理事並びに監事に報告する。
- ⑨ 理事及び職員等は、職務執行状況等について、監事が報告を求めた場合には、速やかにこれに応じる。
- ⑩ 理事長は、定期的に監事と会合を持つなどにより、事業の遂行と活動の健全な発展に向けて意見交換を図り、相互認識を深める。
- ⑪ 監事はその職務の執行について生ずる費用の前払い若しくは支出した費用の償還又は負担した債務の弁済を請求した場合には、速やかに相当額を支払う。

5. 本方針の改廃

本方針に見直しの必要性が生じた場合は、理事会の決議により改正するものとする。

【学校法人森ノ宮医療学園 内部統制システム運用の状況】

1. 経営に関する管理体制に関する運用状況

法令、寄附行為に従った経営管理体制構築のため、「理事会・評議員会運営規程」を整備し、法人本部学園総務室を主管部署として理事会、評議員会等の適正に運営している。また、「役員服務規程」に基づき、業務執行理事の担当業務を明確化し、事業運営の適切かつ迅速な推進を図るとともに、寄附行為及び「文書取扱規程」に基づき理事会、評議員会等の重要会議の議事録その他理事の職務執行に係る情報について、適切に作成、保存及び管理している。業務の適正及び効率性を確保するため、内部監査室が理事会を始め学園の重要会議に陪席することで業務に関する監査を行っている。

2. リスク管理に関する体制に関する運用状況

リスク管理に関しては、「危機管理規程」を整備し、リスク対応方法等を明確にしたうえ、理事長を最高責任者とするリスク管理体制を構築している。また「個人情報保護に関する規程」など必要な規程を整備するとともに、防災計画の策定、役職員に対する危機管理に関する研修、その他コンプライアンスに関する研修の実施など危機管理意識の向上に努めている。

3. コンプライアンスに関する管理体制に関する運用状況

確固たる倫理観をもって事業活動等を行う組織風土を高めるため、「コンプライアンス規程」を整備している。また、「内部通報に関する規程」に基づき、匿名相談できる内部通報窓口を常設し、不正の未然防止を図るとともに、速やかな調査と是正を行う体制を構築している。一方で、内部監査室が職員等の職務執行状況について、コンプライアンスの観点から監査し、その結果を理事会に報告する体制を構築しており、理事等は、当該監査結果を踏まえ、所要の改善を図っている。

4. 監査環境の整備（監事の監査業務の適正性を確保するための体制）に関する運用状況

内部監査部門として内部監査室を設置しており、監事と連携して監査を行う体制を構築している。また監事の監査業務の適正性を確保するため、「監事監査規程」を整備し、監事の職務権限、調査権限などを明確化しているとともに、補助職員の配置、理事長、理事と監事との定期的な会合等についても規定している。

IV. 財務の概要

授業料値上げ、言語聴覚学科の1学年増や補助金収入が増加もあり教育活動収入が5,233,452千円となった。支出も、広報費など経費削減に努めたこともあり、4,947,772千円となった。その結果、経常収支差額は254,433千円のプラスになった。また、施設寄付金等や資産処分差額などの特別収支を差引した結果、基本金組入前当年度収支差額は204,695千円のプラスとなった。

・2025年度事業活動収支計算書概要

(円)

項目	2025年度	2024年度	2023年度	2022年度
教育事業活動収入	5,233,452,338	4,845,958,281	4,818,759,163	4,851,057,908
教育事業活動支出	4,947,772,103	4,726,537,425	4,849,322,042	4,516,174,065
教育活動収支差額	285,680,235	119,420,856	△30,562,879	334,883,843
教育活動外収入	6,609,203	1,719,551	32,528	26,274
教育活動外支出	37,856,250	39,176,683	28,445,703	16,666,274
経常収支差額	254,433,188	81,963,724	△58,976,054	318,243,843
特別収支差額（集計）	△49,738,053	55,505,627	37,464,162	22,986,730
組入前当年度収支差額	204,695,135	137,469,351	△21,511,892	341,230,573
基本金組入額	△455,273,597	△1,213,147,777	△831,195,972	△434,625,781
当年度収支差額	△250,578,462	△1,075,678,426	△852,707,864	△93,395,208
前年度繰越収支差額	△4,830,073,617	△4,395,193,522	△3,545,281,258	△3,485,389,361
翌年度繰越収支差額	△5,080,652,079	△4,830,073,617	△4,395,193,522	△3,545,281,258

・正味資産の推移

(円)

	2025年度	2024年度	2023年度	2022年度
正味資産	14,005,152,063 (内現金預金総額 3,365,266,703)	13,827,322,791 (内現金預金総額 2,918,888,316)	13,689,853,440 (内現金預金総額 2,891,894,962)	13,711,365,332 (内現金預金総額 2,924,578,035)
資産増加額	177,829,272	137,469,351	△21,511,892	341,230,573

・主な財務比率

項目	2025年度	2024年度	2023年度	2022年度
経常収支差額比率	4.9%	1.7%	△1.2%	6.5%
人件費比率	45.3%	49.5%	49.2%	42.2%
教育研究経費比率	37.8%	35.5%	34.7%	31.6%
管理経費比率	11.2%	12.4%	16.5%	13.3%